

ISDNターミナルアダプタ

Aterm ^{エ-ターム} *ITX80/D* (PC-ITX80D1A)

Aterm *ITX80* (PC-ITX80S1A)

Aterm *ITX70/D* (PC-ITX70D1A)

取扱説明書



電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり外国の規格などには準拠しておりません。本製品を日本国外で使用された場合、当社はいっさい責任を負いません。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載・無断複製することは禁止されています。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一ご不審な点や誤り・記入もれなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。
- (4) 本装置の故障・誤動作・不具合あるいは停電等の外部要因によって通信などの機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損失につきましては、当社はいっさいその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- (5) Atermには初の停電機能を持たせるなど、災害時におけるライフラインと直結した通信手段の確保を意図した設計がされていますが、せっかくの機能も不適切な扱いや不測の事態(例えば落雷や漏電など)により故障してしまえば能力を発揮できません。取扱説明書をよくお読みになり、記載されている注意事項を必ずお守りください。

Windows, Windows NT は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Netscape Navigatorは米国 Netscape Communications Corporationの登録商標です。

Mac ロゴ、Macintosh は、米国 Apple Computer, Inc. の登録商標です。

iMac、Power Macintosh G3 は、米国 Apple Computer, Inc. の商標です。

その他、各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

AmLINK3©AMD

©NEC Corporation 1999

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

はじめに





このたびは、^{エーターム}AtermITX80/D・AtermITX80・AtermITX70/Dをお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

AtermITX80/D・AtermITX80・AtermITX70/Dは、ISDN網(デジタル回線)NSネット64で電話機やファクスなどのアナログ通信機器を利用したり、インターネットを快適に利用するためのターミナルアダプタです。




本書は、AtermITX80/D・AtermITX80・AtermITX70/D(以降「Aterm」と表記します)の設置・接続のしかたから、Atermのさまざまな機能の操作や設定方法、困ったときの対処方法に至るまで、Atermを使いこなすために必要な事項について説明しています。Atermをご使用になる前に、本書を必ずお読みください。また、本書は読んだあとも大切に保管してください。

なお、本書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本装置を安全に正しくお使いいただくために守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次のようになっています。

安全に正しくお使いいただくための表示について

- | | |
|--|--|
|  危険 | 人が死亡するまたは重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。 |
|  警告 | 人が死亡するまたは重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。 |
|  注意 | 人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。 |
|  お願い | 本装置の本来の性能を発揮できなったり、機能停止をまねく内容を示しています。 |

絵表示の例

- | | |
|---|---|
|  | △記号は、注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。記号の中には、具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。 |
|  | ⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。 |
|  | ●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。 |



目次

はじめに	i
目次	ii
本書の読みかた	x
1. お使いになる前に	1-1
1.1 安全に正しくお使いいただくために	1-2
1.2 Atermで何ができるの?	1-11
1.3 添付品を確認する	1-14
1.4 各部の名称とはたらき	1-16
1.5 設置・設定のながれ	1-22
2. まずは準備から	2-1
2.1 INSネット64の申し込み	2-2
2.2 設置場所を確認する	2-7
2.3 Atermを設置する	2-9
2.4 電源を入れる	2-12
2.5 電話が使えることを確かめる	2-14
2.5.1 電話をかける	2-14
2.5.2 電話を受ける	2-15
2.5.3 通話を保留するときは	2-15
2.6 日時をセットする	2-16
2.7 バックライトの点灯モードを設定する	2-17
2.8 2台目のアナログ通信機器を接続する	2-18
2.9 パソコンを接続する	2-20
2.9.1 Windowsをお使いの方	2-20
2.9.1.1 パソコンの接続	2-20
2.9.1.2 らくらくユーティリティとらくらくウィザードのインストール	2-23
2.9.1.3 USBドライバの手動インストール	2-26
2.9.2 Macintoshをお使いの方	2-35
2.9.2.1 接続ポートの選択	2-35
2.9.2.2 USBポートへ接続する場合	2-37
2.9.2.3 シリアルポート(モデムポートまたはプリンタポート) へ接続する場合	2-39
2.9.2.4 手動インストールのしかた	2-40
2.10 事例を見ながら設定記入シートに書き込む	2-43
2.10.1 設定ツールの種類	2-43



2.10.2	さまざまな設定事例と『らくらくユーティリティ 画面兼設定記入シート』への記入	2-44
2.10.2.1	らくらくウィザードでの設定事例	2-44
2.10.2.2	らくらくユーティリティでの設定事例	2-51
2.11	アナログ通信機器用の設定をする	2-55
2.11.1	Windowsをお使いの方	2-55
2.11.1.1	らくらくウィザードでの設定	2-55
2.11.1.2	らくらくユーティリティでの設定	2-56
2.11.2	Macintoshをお使いの方	2-57
2.11.2.1	らくらくウィザードでの設定	2-57
2.11.2.2	らくらくユーティリティでの設定	2-57
2.11.3	電話機からの設定	2-59
2.11.3.1	接続したアナログ通信機器の種類を設定する	2-60
2.11.3.2	i・ナンバーの使用を設定する	2-61
2.11.3.3	i・ナンバー情報に電話番号を登録する	2-61
2.11.3.4	発信時に通知するi・ナンバー情報を各ポートに割り当てる	2-63
2.11.3.5	着信させるポートにi・ナンバー情報を割り当てる	2-64
2.12	動作を確認する	2-65
2.12.1	発信と着信を確認する	2-65
2.12.2	内線通話・内線転送する	2-66
3.	電話機能	3-1
3.1	電話機能一覧	3-2
3.2	基本機能	3-4
3.2.1	電話をかける	3-4
3.2.2	電話を受ける	3-5
3.2.3	内線通話	3-6
	・・・内線で話す	
3.2.4	内線転送	3-8
	・・・外線を他の電話機に転送する	
3.2.5	受話音量調節	3-9
	・・・相手の声の音量を変える	
3.2.6	短縮ダイヤル	3-10
	・・・短縮ダイヤルで電話をかける	
3.2.7	発信者番号通知	3-12
	・・・自分の電話番号を相手に知らせる	
3.2.8	着信履歴先発信	3-15
	・・・かかってきた相手に電話をかけ直す	



3.3	便利な機能	3-16
3.3.1	INSキャッチホン(INSネット64)/疑似キャッチホン(Aterm機能)	3-16
	・・・電話中に別の電話を受ける	
3.3.2	三者通話(INSネット64)/疑似三者通話(Aterm機能)	3-19
	・・・三人で同時に話す	
3.3.3	着信転送(INSネット64)/疑似着信転送(Aterm機能)	3-22
	・・・かかってきた電話を転送する	
3.3.4	通信中転送(INSネット64)	3-27
	・・・電話中に別の電話番号へ転送する	
3.3.5	INSナンバー・ディスプレイと INSナンバー・リクエスト(INSネット64)	3-29
3.3.6	キャッチホン・ディスプレイ(INSネット64)	3-33
	・・・キャッチホンで受ける電話にも番号を表示させる	
3.3.7	i・ナンバー(INSネット64)	3-36
	・・・2つの電話番号を使い分ける	
3.3.8	ダイヤルインサービス(INSネット64)	3-38
	・・・複数の電話番号を使い分ける	
3.3.9	モデム・ダイヤルイン	3-41
3.3.10	アナログ・ダイヤルイン	3-44
3.3.11	INSボイスワープとINSボイスワープ・セレクト(INSネット64)	3-47
3.3.12	INSなりわけ識別着信(INSネット64)/疑似識別着信(Aterm機能)	3-50
	・・・電話を受ける相手を特定する	
3.3.13	INSなりわけ識別リングング(INSネット64) /疑似なりわけ(Aterm機能)	3-54
	・・・特定の相手からの着信音を変える	
3.3.14	選択キャッチホン(INSネット64)/疑似選択キャッチホン(Aterm機能)	3-57
	・・・電話中は特定の相手からだけのキャッチホンを受ける	
3.3.15	迷惑電話おことわり(INSネット64)/迷惑電話防止(Aterm機能)	3-59
	・・・迷惑電話をシャットアウトする	
3.3.16	優先着信ポート指定	3-62
	・・・着信する電話機に優先順位をつける	
3.3.17	マイプライベート着信	3-63
	・・・着信する電話機を相手によって変える	
3.3.18	着信ダイヤルイン複数選択	3-66
	・・・複数の電話番号を1つの電話機に着信させる	
3.3.19	サブアドレス	3-68
	・・・サブアドレスで特定の電話機に着信する	
3.3.20	識別着信転送(INSネット64/Aterm機能)	3-71
	・・・特定の電話だけを転送する	
3.3.21	お出かけ設定(一部はINSネット64機能)	3-72
	・・・外出時や就寝中など電話に出られないときに利用する	
3.3.22	HLC	3-76
	・・・HLCが一致する相手と通信する	



4.	インターネット	4-1
4.1	インターネットのセットアップ	4-2
4.1.1	インターネット設定シートに記入する	4-2
4.1.2	Windows98/95をお使いの方	4-4
4.1.2.1	らくらくウィザードによるセットアップ	4-4
4.1.2.2	手動セットアップ	4-7
4.1.3	Macintoshをお使いの方	4-20
4.1.3.1	らくらくウィザードによるセットアップ	4-20
4.1.3.2	手動セットアップ	4-22
4.1.4	WindowsNT4.0をお使いの方	4-33
4.1.5	BIGLOBEへのオンラインサインアップがうまくいかないときは	4-38
4.2	インターネットへの接続	4-39
4.2.1	インターネットへ接続する	4-39
4.2.1.1	Windows98/95をお使いの方	4-39
4.2.1.2	Macintoshをお使いの方	4-41
4.2.1.3	WindowsNT4.0をお使いの方	4-47
4.2.2	ホームページを閲覧する	4-49
4.2.2.1	Windows98/95/NT4.0をお使いの方	4-49
4.2.2.2	Macintoshをお使いの方	4-51
4.2.3	データ通信中のディスプレイ表示	4-52
4.2.4	うまく接続できないときは	4-53
4.3	さまざまな通信機能	4-54
4.3.1	非同期 / 同期PPP変換	4-54
4.3.2	128kbpsマルチリンクPPP通信	4-55
	・・・Bチャンネル2本を使って高速でデータ通信する	
4.3.2.1	128kbps マルチリンク PPP で通信する	4-55
4.3.2.2	リソース BOD	4-57
4.3.2.3	スループット BOD	4-59
4.3.2.4	フレックス BOD	4-61
4.3.3	マルチアクセス	4-62
	・・・2台のパソコンで別々のプロバイダに同時に接続する	
4.3.4	ITMUX	4-63
	・・・同じプロバイダに複数のパソコンで同時に接続する	
4.3.5	PIAFS(ピアフ)データ通信	4-66
	・・・PHSに接続した端末とデータ通信する	
4.3.6	スティルスコールバック	4-67
	・・・Aterm間の通信でクライアント側に通信料金を課金させない	
4.3.7	応答平均化	4-69
	・・・Aterm増設時に各Atermへのデータ着信応答を平均化させる	



4.3.8	無通信監視タイマ	4-70
	…データ通信中データのやりとりがない場合に回線を切断する	
4.3.9	強制切断タイマ	4-71
	…データ通信中設定時間が経過したら回線を切断する	
4.3.10	CTI機能	4-72
5. Atermのメール機能		
5.1	概要と利用条件	5-2
5.2	準備	5-5
5.2.1	INSネット64の契約の確認	5-5
5.2.2	BIGLOBEの申し込みとメールオプションの設定	5-5
5.2.3	着信電話番号と発信者電話番号の設定	5-7
5.2.4	UUIメールEXのインストールと設定	5-8
5.2.4.1	インストール	5-8
5.2.4.2	環境設定	5-10
5.2.4.3	アドレス帳への登録	5-14
5.2.5	テレホン遊遊メール利用の準備	5-16
5.3	電子メール着信通知	5-18
5.3.1	電子メールを確認する	5-18
5.4	UUIメール	5-20
5.4.1	UUIメールを送信する	5-20
5.4.2	受信したUUIメールを読む	5-22
5.4.3	テレホンUUIメールを送信する	5-23
5.4.4	受信したテレホンUUIメールをディスプレイに表示する	5-24
5.5	遊遊メール	5-26
5.5.1	遊遊メールを送る	5-26
5.5.2	テレホン遊遊メールを送る	5-28
5.5.2.1	ポケットベル・PHS・デジタル携帯電話へ ショートメッセージを送る	5-28
5.5.2.2	電子メールを送る	5-30
5.6	メッセージの入力方法	5-32
5.6.1	文字コードを使って入力する	5-32
5.6.2	定型文や自作伝言文を入力する	5-33
5.6.3	自作伝言文を登録する	5-34



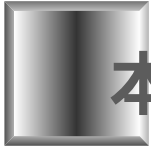
6.	情報表示	6-1
6.1	着信履歴表示	6-2
6.2	着信履歴 for USBユーティリティ(USB専用)	6-4
6.2.1	着信履歴for USBユーティリティのインストール	6-4
6.2.2	着信履歴for USBユーティリティを使う	6-5
6.3	ITMUXステータスfor USBユーティリティ(USB専用)	6-6
6.4	累積料金表示	6-10
6.4.1	Atermのディスプレイに表示する	6-10
6.4.2	らくらくユーティリティで表示する	6-12
6.5	各種情報表示	6-13
7.	USBネットワーク	7-1
7.1	USBネットワークとは?	7-2
7.2	準備	7-6
7.2.1	必要なハードウェア	7-6
7.2.2	必要なソフトウェア	7-6
7.3	サーバーパソコンの設定	7-9
7.3.1	ダイヤルアップサーバープログラムのインストール	7-9
7.3.2	ネットワークの設定	7-10
7.3.3	ダイヤルアップサーバーの設定	7-14
7.3.4	共有設定	7-16
7.4	クライアントパソコンの設定	7-18
7.4.1	ネットワークの設定	7-18
7.4.2	ダイヤルアップネットワークの接続先の作成	7-21
7.5	USBネットワークの使い方	7-23
7.5.1	サーバーへの接続	7-23
7.5.2	公開しているファイルを使う	7-24
7.5.3	共有プリンタを使えるようにする	7-25
7.5.4	ネットワークの切断	7-26
7.6	外部から着信可能なダイヤルアップサーバー	7-26
8.	電話機からの設定操作	8-1
8.1	電話機からの設定について	8-2
8.2	アナログポート個別の設定項目	8-2
8.3	アナログポート共通の設定項目-1	8-6
8.4	アナログポート共通の設定項目-2	8-10
8.5	その他の設定項目	8-13



9. 停電対策	9-1
9.1 停電モードでの動作	9-2
9.2 電池のセットのしかた	9-3
10. Atermを出荷時の状態に戻す(初期化)	10-1
10.1 初期化とは	10-2
10.2 らくらくユーティリティで初期化する	10-3
10.3 操作ボタンを使って初期化する	10-4
10.4 ディップスイッチで初期化する	10-4
11. Atermのバージョンアップ	11-1
11.1 バージョンアップとは	11-2
11.2 ファームウェアのバージョンアップ	11-4
11.2.1 Windowsをお使いの方	11-4
11.2.2 Macintoshをお使いの方	11-6
12. お困りのときには	12-1
12.1 トラブルシューティング	12-2
設置に関するトラブル	12-2
インストールに関するトラブル	12-3
電話に関するトラブル	12-4
ファクスに関するトラブル	12-7
モデム通信(アナログ)に関するトラブル	12-8
インターネットに関するトラブル	12-9
WindowsのUSBポート接続に関するトラブル	12-13
Windows/MacintoshのUSBポート接続に関するトラブル	12-16
USBネットワークに関するトラブル	12-17
通信全般に関するトラブル	12-19
その他のトラブル	12-21
12.2 Windows98/95のUSBについてのQ&A	12-24
12.3 MacintoshのUSBについてのQ&A	12-26
12.4 ハイパーターミナルで接続を確認する	12-27
12.5 自己診断	12-30
12.6 Atermの設定内容を確認する	12-31



付録	付-1
付録1. OCNエコノミーについて	付-2
付録2. ホームテレホン / ビジネスホンの接続	付-5
付録3. 別売オプション	付-7
付録4. ターミナルアダプタの増設	付-8
付録5. S点 / 高機能S点ユニット	付-9
付録6. 切断理由・診断情報・生成源表示一覧	付-11
付録7. ディップスイッチ	付-15
付録8. 仕様	付-16
付録9. D-SUB 9ピンインタフェース	付-19
付録10. 修理と現地調整・保守契約について	付-20
付録11. Atermに関するお問い合わせ先	付-25
付録12. NECクリーンスポットの訪問サービス	付-27
付録13. 用語解説	付-29
索引	索-1



本書の読みかた

■ ディスプレイ表示について ■

本書では、AtermITX70/Dのディスプレイ表示を掲載しています。AtermITX80、ITX80/Dでは表示が異なる場合があります。

■ らくらくユーティリティの画面について ■

本書では、らくらくユーティリティの画面はWindows版のものを掲載しています。Macintosh版の画面はデザインが多少異なりますが、操作手順や各画面の表示項目はWindows版と同じです。

■ 本書で使用している記号について ■

本書で使用している記号の意味は下記のとおりです。

- ▼ ご注意 取り扱いや操作に関する注意事項が記載されています。必ずお読みください。
- ご参考 関連する情報が記載されています。必要に応じてお読みください。
- ? こんなときは 状況に応じたアドバイスを記載しています。操作にまずいたときなどにお読みください。

1. お使いになる前に

- ▶ 安全上のご注意のほか、Atermをお使いいただく際に知る必要のある基本的な事項について説明しています。お使いになる前に必ずお読みください。

1.1	安全に正しくお使いいただくために	1-2
1.2	Aterm で何ができるの?	1-1 1
1.3	添付品を確認する	1-1 4
1.4	各部の名称とはたらき	1-1 6
1.5	設置・設定のながれ	1-2 2

1.1 安全に正しくお使いいただくために

本書では、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本装置を安全に正しくお使いいただくために守っていただきたい事項を示してあります。本装置をご使用の前に必ずお読みください。

1

安全に正しくお使いいただくために

⚠ 危険

■ アルカリ乾電池ご使用時の注意 ■

アルカリ乾電池内部の液が入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずに、すぐにきれいな水で充分洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。



■ ニカド電池パックご使用時の注意 ■

電池パックを使用する場合は、次のことを必ず守ってください。電池パックを漏液、発熱、破裂させる原因となります。

- ・ 充電は、本装置以外では行わないでください。
- ・ 電池パックは、コネクタの向きが決まっています。本装置に接続するときは、コネクタの向きを確かめて正しく差し込んでください。
- ・ 専用の電池パックを使用してください。また、専用の電池パックは他の機器には使用しないでください。
- ・ 火の中に投入したり、加熱しないでください。
- ・ 直接はんだ付けをしないでください。
- ・ 電池パックを分解、改造しないでください。
- ・ 電池パックを金属製品と一緒に持ち運んだり保管したりしないでください。
- ・ 電池パックのコードはショートさせないように注意してください。また、プラスとマイナスを針金などの金属類で接続しないでください。



電池パック内部の液が入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずに、すぐにきれいな水で充分洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。



警告

■ 設置場所について ■

風呂、シャワー室への設置禁止

ふる場やシャワー室などでは使用しないでください。漏電して、火災・感電の原因となります。

水のかかる場所への設置禁止

水のかかる場所で使用したり、水にぬらすなどして使用しないでください。漏電して、火災・感電の原因となります。

■ 電源について ■

商用電源以外の禁止

AC100Vの家庭用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となります。差し込み口が2つ以上ある壁の電源コンセントに他の電気製品の電源プラグを差し込む場合は、合計の電流値が電源コンセントの最大値を超えないように注意してください。火災・感電の原因となります。

電源コードの取扱注意

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら、ご購入店またはNECサービスステーションに修理をご依頼ください。

ぬれた手での操作の禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



1

安全に正しくお使いいただくために

警告

たこ足配線の禁止

本装置の電源コードは、たこ足配線にしないでください。たこ足配線にするとテーブルタップなどが過熱・劣化し火災の原因となります。



■ もしもこんなときは ■

発煙への対処

万一、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから、ご購入店またはNECサービスステーションに修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



水が装置内部に入った場合の対処

万一、内部に水などが入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、ご購入店またはNECサービスステーションにご連絡ください。そのまま使用すると漏電して、火災・感電の原因となります。



異物が装置内部に入った場合の対処

本装置の通風孔などから内部に金属や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、ご購入店またはNECサービスステーションにご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。特に、お子様のいるご家庭ではご注意ください。



電源コードが傷んだ場合の対処

電源コードが傷んだ(芯線の露出・断線など)状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、ご購入店またはNECサービスステーションに修理をご依頼ください。



警告

破損時の対処

万一、落としたり、破損した場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、ご購入店またはNECサービスステーションに修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

■ 禁止事項について ■

分解・改造の禁止

本装置を分解・改造しないでください。火災・感電の原因となります。

ぬらすことの禁止

本装置に水が入ったりしないよう、またぬらさないようご注意ください。漏電して火災・感電の原因となります。

ぬれた手での操作の禁止

ぬれた手で本装置を操作したり、接続したりしないでください。感電の原因となります。

本装置の安全性の劣化につながる使用の禁止

ニカド電池コネクタの充電端子を金属でショートさせないでください。火災・故障の原因となります。また、充電端子に水滴のついたまま充電しないでください。火災・故障の原因となります。



1

安全に正しくお使いいただくために

警告

■ 其他のご注意 ■

異物を入れないための注意

本装置の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



■ アルカリ乾電池ご使用上の注意 ■

電池の + と - を逆にして使用しないでください。充電やショートなどで異常反応を起こしたりして、電池を漏液、発熱、破裂させるおそれがあります。



新しい電池と一度使用した古い電池、種類の異なる電池などを混ぜて使用しないでください。特性の違いから、電池を漏液、発熱、破裂させるおそれがあります。



この電池は充電式ではないので、充電すると液もれ、破裂のおそれがあります。



電池の外装ラベルをはがしたり、傷つけないでください。電池がショートし、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。



ショート、分解、加熱、火に入れるなどしないでください。アルカリ性溶液がもれて眼に入ったり、発熱、破裂の原因となります。



万一、アルカリ性溶液が皮膚や衣服に付着した場合には皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐに多量のきれいな水で洗い流してください。



電池のアルカリ液をなめた場合には、すぐにうがいをして医師に相談してください。



■ ニカド電池パックご使用時の注意 ■

電池パックの外装チューブをはがしたり、キズをつけないでください。電池パックを漏液、発熱、破裂させる原因となります。



電池パック内部の液が皮膚や衣服に付着した場合は、皮膚に傷害をおこすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。



電池パックを水や海水につけたりぬらさないでください。電池パックを発熱させたり、さびの原因となります。



液もれ、変色、変形、その他今までと異なることに気がついたときは、使用しないでください。



⚠ 注 意

■ 設置場所について ■

火気のそばへの設置禁止

本装置や電源コードを熱器具に近づけないでください。ケースや電源コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



温度の高い場所への設置禁止

直射日光の当たるところや、温度の高いところ、発熱する装置のそばに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。



油飛びや湯気の当たる場所への設置禁止

調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



さかさま置きの禁止

本装置をさかさまに置かないでください。



不安定な場所への設置禁止

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。また、本装置の上に重い物を置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。



通風孔をふさぐことの禁止

本装置の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。次のような使い方はしないでください。



- ・ あお向けや逆さまにする
- ・ 収納棚や本棚などの風通しの悪い狭い場所に押し込む
- ・ じゅうたんや布団の上に置く
- ・ テーブルクロスなどを掛ける

重ね置きの禁止

本装置を重ね置きしないでください。重ね置きすると内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



1

安全に正しくお使いいただくために

注意

■ 電源について ■

プラグの取扱注意

電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。抜くときは、必ずプラグをもって抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



アース線の取り付け

万一、漏電した場合の感電事故防止のため、必ずアース線を取り付けてください。



移動させる場合は、本体の電源スイッチを切った後、電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続線ははずしたことを確認の上、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



長期不在時の注意

長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、停電用電池も取りはずしてください。



電源プラグの清掃

電源プラグとコンセントの間のほこりは、定期的(半年に一回程度)に取り除いてください。火災の原因となることがあります。



■ 禁止事項について ■

乗ることの禁止

本装置に乗らないでください。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。壊れてけがの原因となることがあります。



■ 雷のときの注意 ■

雷が鳴りだしたら、電源コードに触れたり周辺機器の接続をしたりしないでください。落雷による感電の原因となります。



⚠ 注 意

■ アルカリ乾電池ご使用上の注意 ■

下記のことを必ず守ってください。電池の使い方を間違えると液もれや破裂のおそれがあり、機器の故障やけがなどの原因となります。

- ・ 使用推奨期間内の単3アルカリ乾電池をお使いください。(アルカリ以外のマンガン電池などでの動作保証はしていません。)
- ・ 使い切った電池はすぐに機器から取り出してください。使い切った電池を機器に接続したまま長時間放置すると、電池から発生するガスにより、電池を漏液、発熱、破裂させたり、機器を破損させるおそれがあります。
- ・ 電池に直接ハンダ付けをしないでください。
- ・ 電池は直射日光、高温、高湿の場所を避けて保管してください。電池を漏液させるおそれがあります。また、電池の性能や寿命を低下させることがあります。
- ・ 電池を取りはずした場合は、小さなお子様が電池をなめたり、あやまって飲むことがないようにしてください。電池は幼児の手の届かないところへおいてください。
- ・ 停電がなくても、1年に1度の割合で新しい電池と交換してください。長期間電池を装着したままご使用になると、電池が漏液するおそれがあります。
- ・ 電池を保管する場合および廃棄する場合は、テープなどで端子部を絶縁してください。他の電池や金属製のものと混ぜると、漏液・発熱・破裂のおそれがあります。
- ・ 電池を入れた電池ホルダー側の面を、発熱する機器の近くや直射日光・高温・高湿の場所に置かないでください。漏液・発熱・破裂のおそれがあります。
- ・ 使い切った電池はすぐに機器から取り出してください。過放電・高温放置による電池の液もれでの本装置の故障については当社は保証いたしかねます。



⚠ 注意

■ ニカド電池パックご使用上の注意 ■

電池パックに強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。



電池パックは乳幼児の手の届かないところに保管してください。



STOP お願い

■ 設置場所について ■

本装置を安全に正しくお使いいただくために、次のような所への設置は避けてください。

- ・ ほこりや振動が多い場所
- ・ 気化した薬品が充満した場所や、薬品に触れる場所
- ・ 強い磁界を発生する装置が近くにある場所
- ・ 高周波雑音を発生する高周波ミシン、電気溶接機等が近くにある場所

テレビやラジオにノイズが入ることがあります。またコードレス電話や携帯電話などで通話中の時にノイズが入ることがあります。その場合は本装置から距離を置いてご使用ください。

■ 禁止事項について ■

動作中に接続コードがはずれたり、接続が不安定になると誤動作の原因となります。動作中は、コネクタの接続部には絶対に触れないでください。

■ 日頃のお手入れ ■

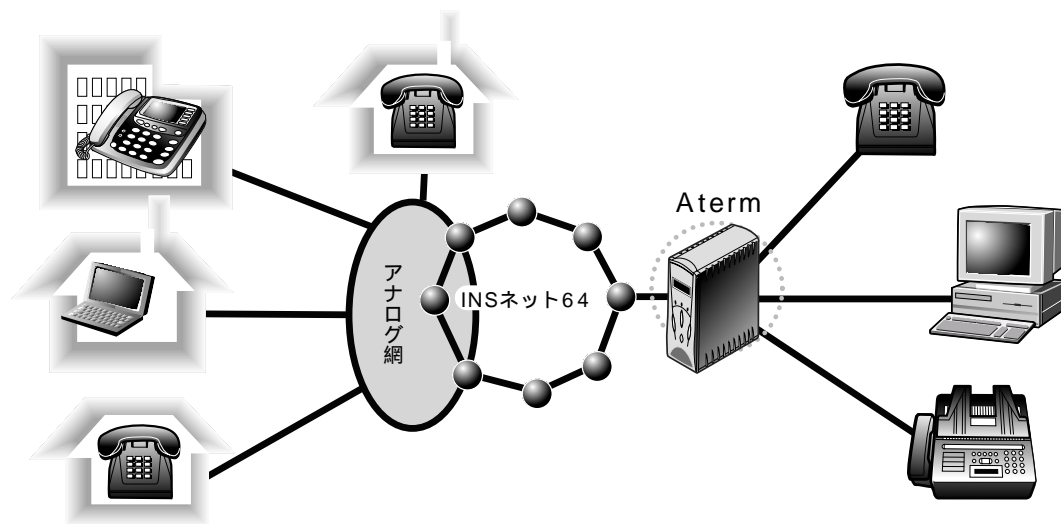
汚れたら、乾いた柔らかい布でふきとってください。汚れのひどいときは、中性洗剤を含ませた布でふいたあと、乾いた布でふきとってください。化学ぞうきんの使用は避けてください。ベンジン、シンナーなどの有機溶剤、アルコールは絶対に使用しないでください。変形や変色の原因となることがあります。

1.2 Atermで何ができるの？

■ Atermの役割 ■

Atermは、NTT東日本またはNTT西日本(以下NTTと言う)のISDN網(デジタル回線)INSネット64専用のターミナルアダプタ(TA)です。ターミナルアダプタは、アナログ回線で使っていた電話機やファクス、パソコンなどをINSネット64で利用できるようにする装置です。

INSネット64は、64kbpsのBチャンネル(情報チャンネル)2本と、16kbpsのDチャンネル(信号チャンネル)1本で構成されています。デジタル回線のためアナログ回線に比べ安定した通信を行えるので、インターネットなどのデータ通信に適しています。また、Bチャンネル1本がちょうどアナログの1回線分に相当するので、同時に2つの通話・通信が可能です。



■ Atermの主な特長 ■

アナログ3ポート搭載

Atermには3台のアナログ通信機器(電話機やファクス)を接続でき、このうちどれか2台を同時に使用できます¹。

らくらくウィザード

らくらくウィザードを使うと、質問に答えるだけで面倒なセットアップが簡単に済みます。BIGLOBEへのオンラインサインアップもウィザードから選択できます。もちろん、パソコンを使わない方のためのテレホン設定、より高度な使い方をしたい方のための各種ユーティリティやATコマンドなども付属し、自分に合った使い方が可能です。

1: パソコンからインターネットに接続しているときは、使用できるアナログ通信機器は1台となります。

128kbpsマルチリンクPPP通信

Bチャンネル2本を使い128kbpsの速度で通信できるので、動画などを含むWWWページの表示などが高速になり、快適に使用できます。データ量に応じて64kbps↔128kbps通信を自動的に切り替えるスループットBODや、電話を使うときはBチャンネル1本に切り替えるリソースBODも備わり、大事な電話を逃がす心配もありません。

USBポート搭載

COMポートはもちろん、USB(Universal Serial Bus)ポートも搭載し、ご自分のパソコンに合わせてお使いいただけます。

USBポートを使用すると、パソコン上で着信履歴を確認したり、USBネットワークなど、Atermの機能をより活用することができます。

マルチアクセス²

Atermに接続した2台のパソコンから、別々のプロバイダに同時にアクセスできます。

ITMUX

同じプロバイダなら、Bチャンネル1本で、2台(または3台³)のパソコンから同時にアクセスできます。データ量が少ないときは、通信費の節約につながります。また、この方法ならもう1本のBチャンネルが空いているため、パソコンを2台使っていても電話機やファクスを利用できます。

USBネットワーク

Atermに接続した2台(または3台⁴)のパソコン間で、ファイルやプリンタの共有が可能です。パソコン側に特別な機器を増設せずに、簡易LANを構築できます。COMポート接続にも対応していますので、USBポートのないパソコンでも大丈夫です。

PIAFSデータ通信対応

AtermはPHSとの通信規格、PIAFS64K通信に対応しています。外出先で、PHSから自宅のパソコンにデータを送りたいといったモバイル派に最適です。

2: マルチアクセス中は、アナログ通信機器を使用できません。

3: AtermITX80、80/Dの場合、パソコンを最大3台接続できます。

4: AtermITX80、80/Dの場合、3台のパソコンを接続できますが、同時にやり取りできるのはそのうちの2台となります。

でかけるボタン

外出前に「でかけるボタン」を押せば、デジタル携帯電話やPHS、ポケットベル⁵、パソコンへ、かけてきた方の電話番号を通知します(電話番号着信通知⁶)。また、「疑似着信転送」機能をあわせて使えば、NTTとの契約なしで、かかってきた電話を転送することもできます。留守中の大切な電話を逃しません。

S点ユニット

内蔵のS点ユニットスロットに、別売りの「S点ユニット」を取り付けると、ターミナルアダプタ(TA)やISDN通信機器を最大7台まで増設できます。

高機能S点ユニット

内蔵のS点ユニットスロットに、別売りの「高機能S点ユニット」を取り付けると、ターミナルアダプタ(TA)やISDN通信機器を最大7台まで増設できます。さらに、家中の電話機やパソコン同士で内線通話や内線データ通信などができるホームISDNネットワークを構築できます。

INSネット64のサービスに対応⁷

- ・ INSナンバー・ディスプレイ ・ ダイヤルイン
- ・ INSキャッチホン ・ INSボイスワープ
- ・ i・ナンバー など

電子メール着信通知⁸

電子メールが着信すると、AtermのMSGランプが点滅して電子メールの到着をお知らせします。電子メールの到着を確認するためだけにパソコンを起動する必要はありません。

遊遊メール/テレホン遊遊メール⁹

INSネット64のユーザ間情報通知(UUI)を利用して、漢字49文字までのショートメッセージを全国一律、1回0.4円で送信できます。

パソコンや電話機のプッシュホンを使ってメッセージを作成し、相手のパソコンやデジタル携帯電話、PHS、ポケットベル⁵などに送信します。

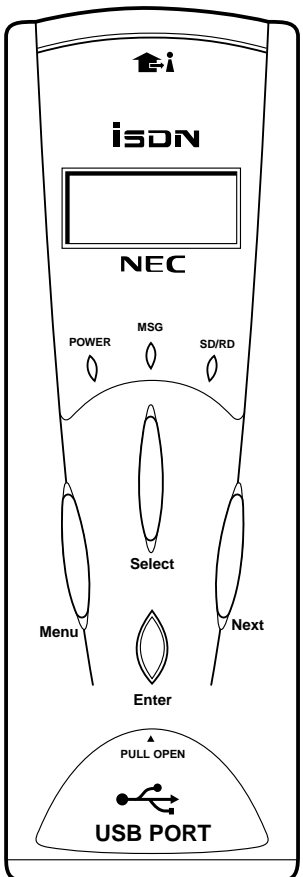
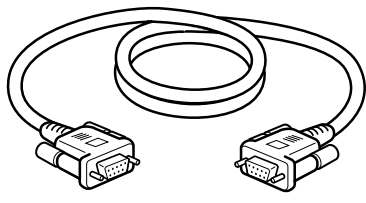
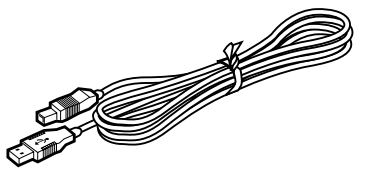
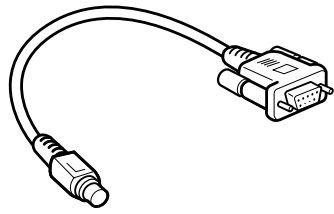
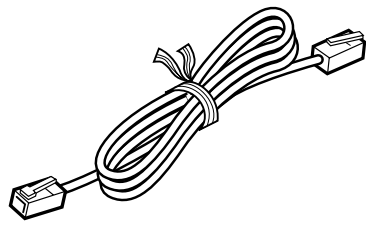
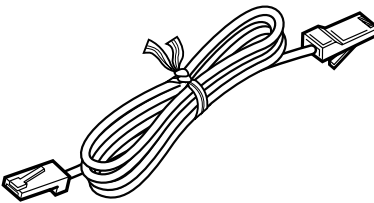
- 5: 各通信業者の電子メールによる呼び出しサービスを利用したデジタル携帯電話・PHS・ポケットベルに対応します。
- 6: BIGLOBEの「遊遊メール」への申し込みが必要です。一般加入電話からの着信の場合、相手の方が「ナンバー・ディスプレイ」に加入している場合に利用できます。「ナンバー・ディスプレイ」に加入していない場合は、電子メールで「ヒツウチ」と通知されます。
- 7: INSネット64の付加サービス契約が必要です。
- 8: BIGLOBEへの申し込みが必要です。また、利用料(月額300円)、通話料(60円/月、31通以上は2円/通話)がかかります。
- 9: BIGLOBEへ加入し、IDを登録し、さらに発信者番号の通知が必要です。利用料(200円/均一)1メールあたり0.4円の通信料はNTTへのお支払いとなります)

1.3 添付品を確認する

梱包箱を開いたら、まず、添付品がすべてそろっていることを確認してください。不足しているものがある場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

■ Aterm の添付品 ■

1 添付品を確認する

<p>本体</p> 	<p>RS-232Cケーブル(9ピン)</p> 	
	<p>USBケーブル(2m)</p> 	<p>Mac変換ケーブル</p> 
	<p>INS回線ケーブル(3m) (AtermITX70/D、 AtermITX80/Dの場合)</p> 	<p>Sバスケーブル(3m) (AtermITX80の場合)</p> 
<p>取扱説明書(本書) らくらくユーティリティ画面兼設定記入シート ユーザ登録ガイド 保証書 CD-ROM</p>		

■ CD-ROM の内容 ■

AtermITX80/70シリーズユーティリティ集

- ITX80/70らくらくウィザード(Windows版、Macintosh版)
- ITX80/70らくらくユーティリティ(Windows版、Macintosh版)
- ITX80/70らくらくバージョンアップ(Windows版、Macintosh版)
- UIメールEX(Windows版、Macintosh版)
- 電子メール着信通知・UIメールユーティリティ(Windows版、Macintosh版)
- USB関連ソフトウェア(Windows98/Windows95)など

電子マニュアル(pdfファイル形式)

- 取扱説明書(取扱説明.pdf)
- ATコマンド解説書(ATコマンド*.pdf)
- 用語解説(用語解説.pdf)

■ 電子マニュアルの見かた ■

Acrobat Reader Ver3.0J以上をお持ちのかたは、CD-ROMをセットしてそれぞれのpdfファイルをダブルクリックしてください。

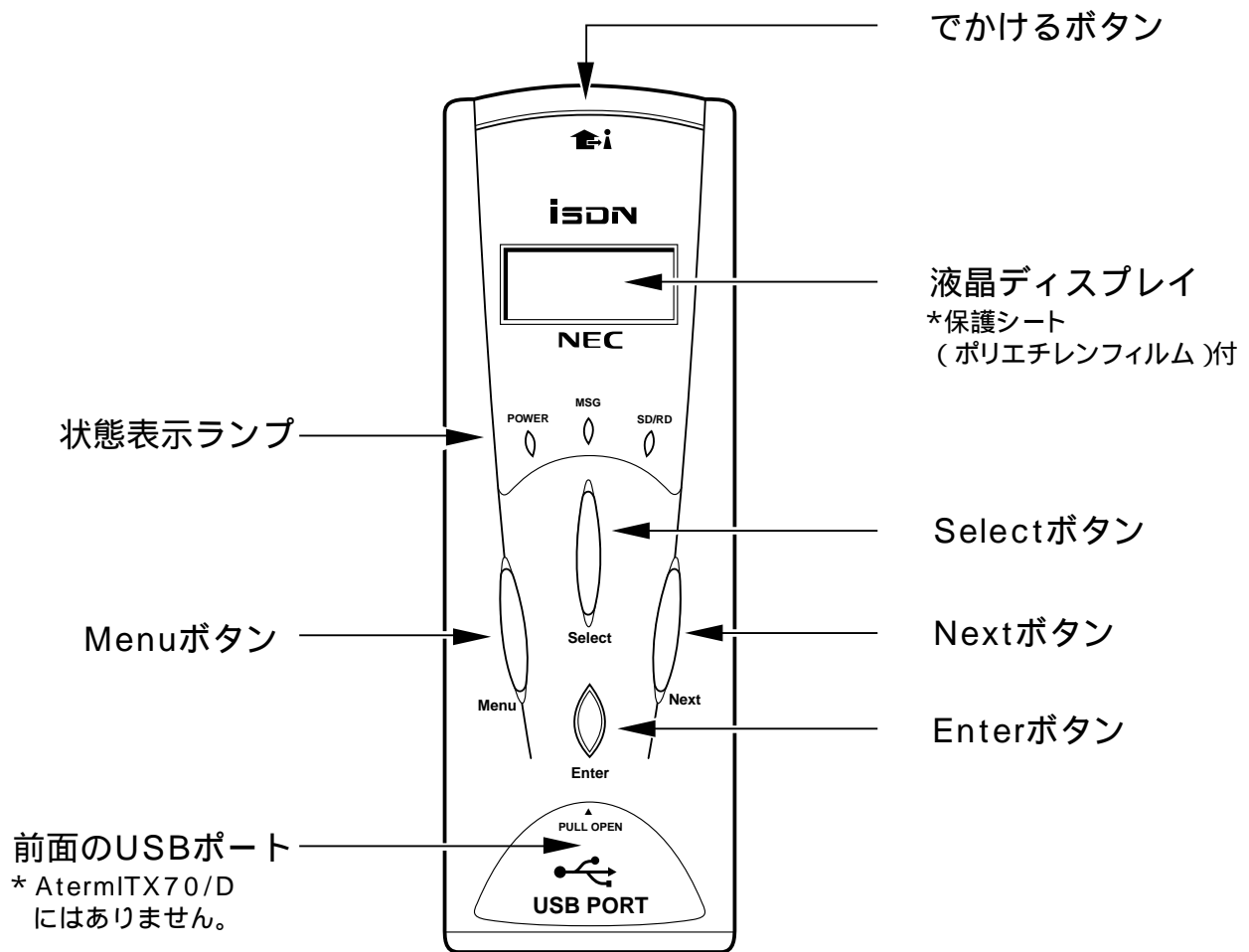
Acrobatをお持ちでないかたは、CD-ROMにあるReaderフォルダの中のAdobe Acrobat® Readerをインストールしてください。

1.4 各部の名称とはたらき

■ 前面図 ■

1

各部の名称とはたらき



本装置のプラスチックの一部に、光の具合によってキズに見える部分があります。プラスチックの製作過程で生じるものですが、構造上および機能上は問題ありません。安心してお使いください。

でかけるボタン

おやすみモード / 電話着信転送モード / ボイスワープ転送モード / フラッシュモードの開始 / 停止を切り替えるボタンです。開始のときは、ボタンが赤く点灯します。おやすみモードまたはフラッシュモードに設定されているときに着信があると点滅します。

液晶ディスプレイ

回線や通信機器の使用状況、設定時の内容、日時などが絵文字(ピクトグラム)やメッセージで表示されます。

状態表示ランプ

SD/RD(Send Data/Receive Data)ランプ

- データ送信時(パソコンからAterm)に緑色で点滅します。
 - データ受信時(Atermからパソコン)に赤色で点滅します。
- USBポートでデータ通信を行っているときは、点灯 / 点滅しません。

MSG(MESSAGE)ランプ

電子メール着信通知やUUIメールが入っているときに、オレンジ色で点滅します。

PWR(POWER)ランプ

- 電源が入っているときに、緑色で点灯します。
- 電池で動作しているときは、緑色で速く点滅します(1秒間に2回)。電池の残量が少なくなると、点滅速度が遅くなります(1秒間に1回)。

Selectボタン

項目を切り替えるときに使います。Selectボタンを押すたびに表示される項目が変わります。

Menuボタン

設定をするときに使います。設定の途中でMenuボタンを押すと設定が解除されます。

Nextボタン

発信履歴・着信履歴・切断履歴をそれぞれ過去6件分表示します。

Nextボタンを1回押すと、1つ前の履歴が表示されます。

Nextボタンを5秒間押し続けると、RS-232Cポート(データポート)の通信のみを切断します(ITMUX通信中のみ)。

Enterボタン

設定内容を確定するときに使います。また、128 kbpsマルチリンクPPP通信中にEnterボタンを押すと、通信速度(64 kbps ↔ 128 kbps)を切り替えることができます。

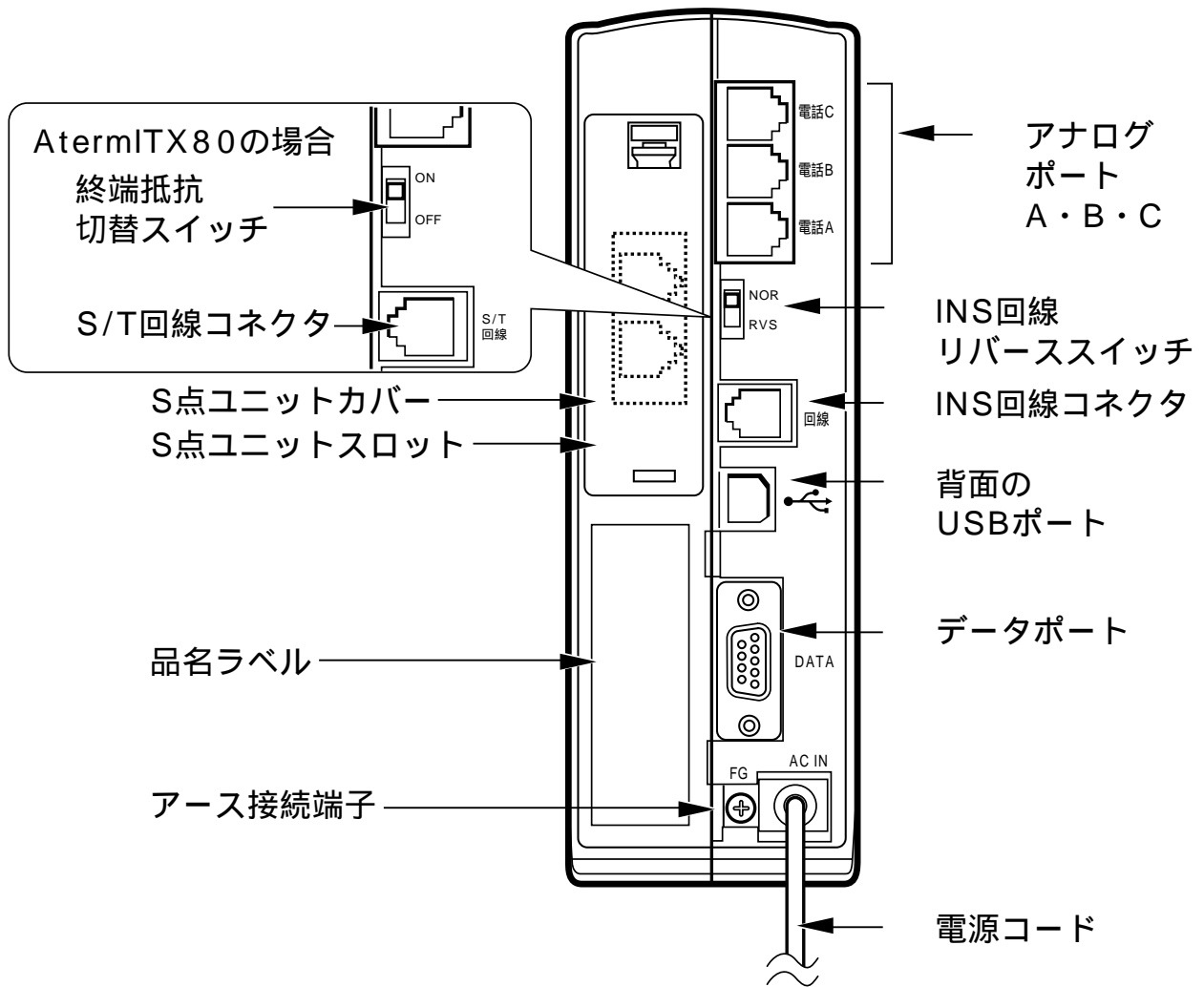
前面のUSBポート(カバー付き)

添付のUSBケーブルを使ってパソコンのUSBポートに接続します(AtermITX70/Dにはありません)。

■ 背面図 ■

1

各部の名称とはたらき



アナログポートA・B・C

モジュラケーブルを使って、電話機やファクス、モデムなどのアナログ通信機器を接続します。

INS回線リバーズスイッチ

INSネット64の配線が逆転しているとき(同期がとれないとき)に切り替えます。切り替えるときは、細く硬いもの(つまようじの先など)を使ってください。

INS回線コネクタ

添付のINS回線ケーブルを使って、INSネット64と接続します。

S点ユニットカバー

別売りのS点ユニットまたは高機能S点ユニットの着脱時にこのカバーを外します。

S点ユニットスロット

別売りのS点ユニット(PC-IT/U03)または高機能S点ユニット(PC-IT/UX2)を増設する際に使用します。

背面のUSBポート

添付のUSBケーブルを使って、パソコンのUSBポートに接続します。

データポート

添付のRS-232Cケーブルを使って、パソコンのCOMポート(Windowsの場合)またはモデムポート/プリンタポート(Macintoshの場合)に接続します。

品名ラベル

Atermの認定番号や製造番号などが記載されています。

終端抵抗切替スイッチ

終端抵抗を設定するスイッチです。

S/T回線コネクタ

添付のSバスケーブルを使って、DSUと接続します。

アース線接続端子

アース線を取り付ける端子です。

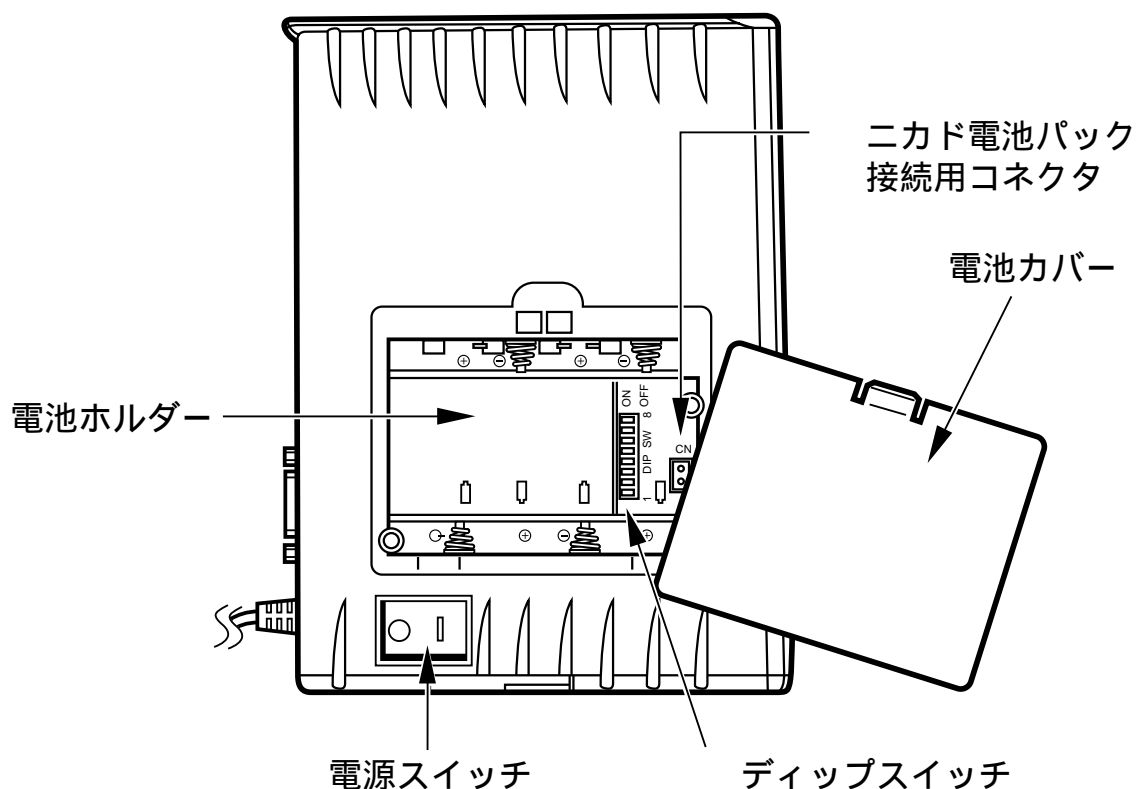
電源コード

AC100Vの家庭用電源コンセントに接続します。

■ 左側面図 ■

1

各部の名称とはたらき



電池カバー

ツメの部分を押しながら、カバーを持ち上げると外れます。

ニカド電池パック接続用コネクタ

別売りのニカド電池パックを接続します。

電池ホルダー

停電時にも使用できるように、市販の単3アルカリ乾電池(4本)または別売りのニカド電池パックを入れます(☞9-3ページ)。

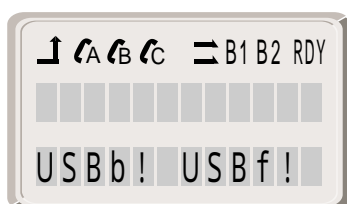
電源スイッチ

電源の入/切を切り替えるスイッチです。電源を入れるときは「|」側を押します。

ディップスイッチ

特別な設定をするときに使用します(☞付-15ページ)。

■ 絵文字（ピクトグラム）■



絵文字	説明
↑	フレックスホンの着信転送や疑似着信転送、電話番号着信通知の設定時に表示されます。
Ⓐ Ⓑ Ⓒ	左からアナログAポート、Bポート、Cポートに対応しています。各ポートに接続されている電話機やファクスの受話器をあげると、表示されます。
≡	データ通信中に表示されます。 ≡ Bチャンネル1本で通信中(64 kbps)に表示されます。 ≡ Bチャンネル2本で通信中(128 kbps)に表示されます。
B1 B2	それぞれB1チャンネル、B2チャンネルの使用中に表示されます。
RDY	データポートに接続されたパソコンのER(Equipment Ready)信号がオンのときに表示されます。
USBf!	前面のUSBポートに接続されたパソコンのER(Equipment Ready)信号がオンのときに表示されます。
USBb!	背面のUSBポートに接続されたパソコンのER(Equipment Ready)信号がオンのときに表示されます。

1.5 設置・設定のながれ

Aterm設置・設定のながれは以下のとおりです。

1

設置・設定のながれ

Step1 INS ネット 64 の申し込み

(☞ 2-2 ページ~)

まずは、INS ネット 64 への申し込みを行ってください。

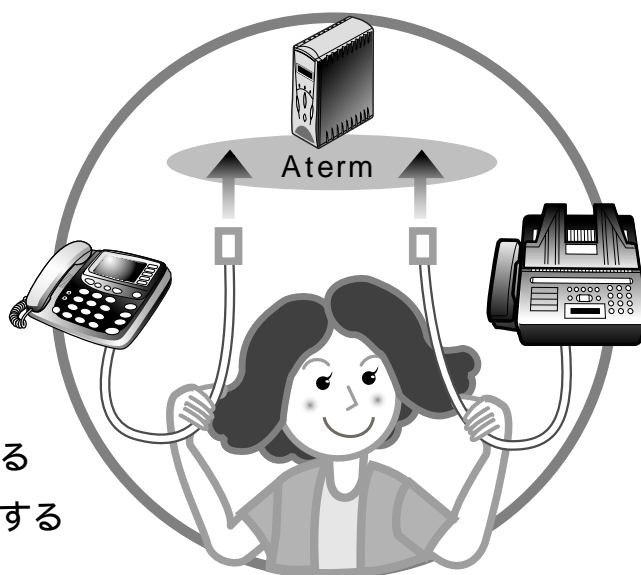


Step2 アナログ通信機器の接続

(☞ 2-7 ページ~)

電話機やファクス、モデムなどのアナログ通信機器を Aterm に接続します。

- 設置場所を確認する
- Aterm を設置する
- 電源を入れる
- 電話が使えることを確かめる
- 日時をセットする
- バックライトの点灯モードを設定する
- いろいろなアナログ通信機器を接続する



Step3 パソコンの接続とアナログ通信機器の設定

(☞ 2-20 ページ~)

パソコンを接続し、各種サービスを利用するための設定を行います。

- パソコンを接続する
- 設定記入シートに設定内容を書き込む
- アナログ通信機器用の設定をする

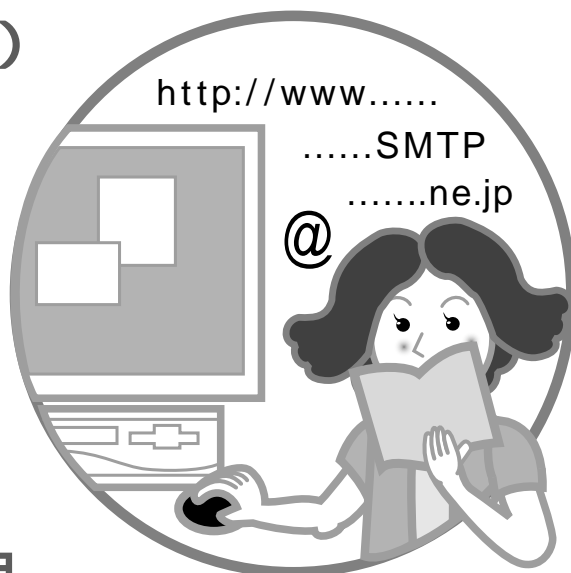


Step4 インターネットへの接続と設定

(☞ 4-2 ~ 4-53 ページ)

インターネットを利用するための設定・接続作業を行います。

- インターネットのセットアップ
- インターネットへの接続



Step5 各種サービスの利用

(☞ 3-2 ページ~、4-54 ページ~)

Aterm の機能や INS ネット 64 のサービスをフルに活用しましょう。

2. まずは準備から

- ▶ Atermへ電話機やパソコンを接続し、最低限必要な設定まで順を追って説明します。誤った接続や設定ではAtermが正しく動作しません。よく読んで作業を進めてください。

2.1	INS ネット 64 の申し込み	2-2
2.2	設置場所を確認する	2-7
2.3	Aterm を設置する	2-9
2.4	電源を入れる	2-12
2.5	電話が使えることを確かめる	2-14
2.6	日時をセットする	2-16
2.7	バックライトの点灯モードを設定する	2-17
2.8	2 台目のアナログ通信機器を接続する	2-18
2.9	パソコンを接続する	2-20
2.10	事例を見ながら設定記入シートに書き込む	2-43
2.11	アナログ通信機器用の設定をする	2-55
2.12	動作を確認する	2-65

2.1 INS ネット 64 の申し込み

INSネット64の申し込みを済ませていない方は、以下の記述を参考にして申し込んでください。

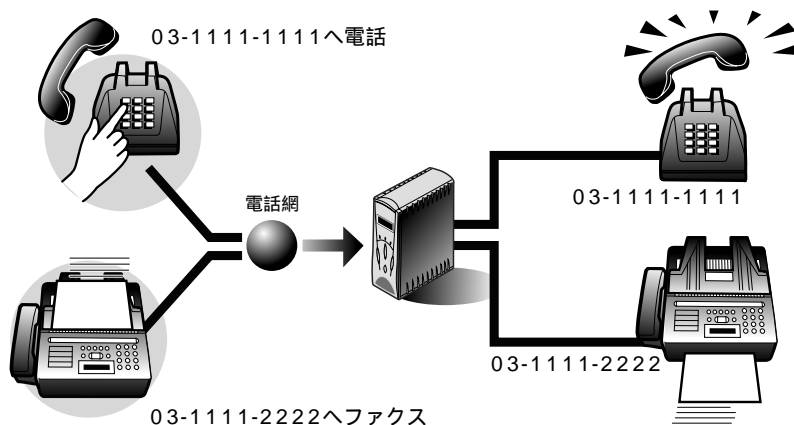
■ サービスを選ぶ ■

INSネット64に申し込む際に、利用サービスを選択できます。便利なサービスがいくつも用意されていますので、ご自分の使用目的にあったサービスを選び、申し込んでください。

- ・ サービスの申し込みは、後日必要に応じて変更・取り消し・追加ができます(有料)。
- ・ INSネット64のサービスについて詳しくは、NTTにお問い合わせください。

ここでは、INSネット64で提供される代表的なサービスを目的別に紹介します。

電話機とファクスで呼び分けたい^{アイ} (i・ナンバーまたはダイヤルイン)
電話機とファクスを異なる電話番号で呼び分けるサービスです。



●ご参考・・・・・・・・

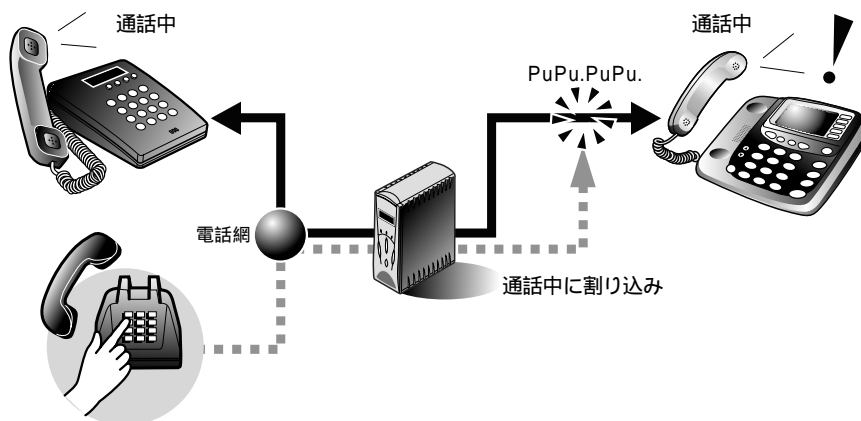
電話機のほかにファクスを使用する場合、1つの電話番号だけをご契約になると、電話がかかってきても先にファクスが応答し、ファクスで電話を受けることになります。この場合、電話機で電話を受けることができず、さらにファクスの自動切り替えの間、相手に余計な通話料がかかるという問題点もあります。電話機とファクスを使用する場合は、i・ナンバーまたはダイヤルインのご契約をおすすめします。

2つの電話番号で呼び分ける場合はi・ナンバーがお得です。3つ以上の電話番号で呼び分ける場合はダイヤルインをご契約ください。



話し中にほかの電話を逃したくない（キャッチホン）

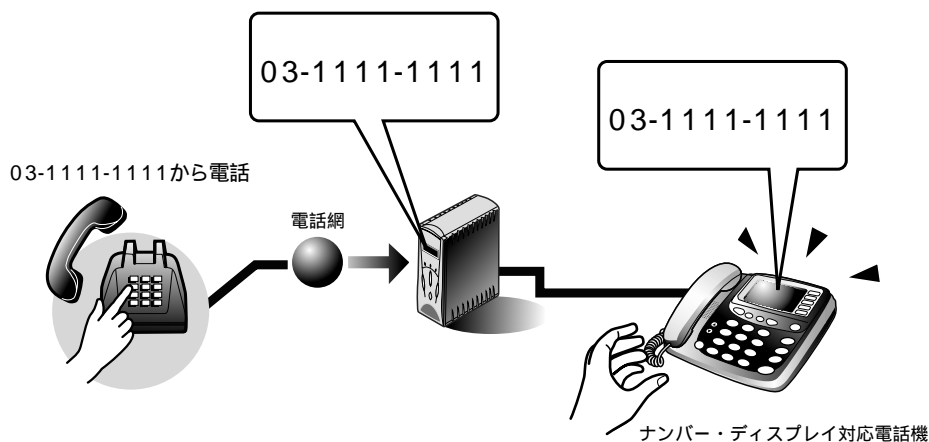
話し中でもほかの電話を受けられるサービスです。



相手の電話番号を知りたい（INSナンバー・ディスプレイ）

電話を受ける前に相手の電話番号を表示するサービスです。

ナンバー・ディスプレイ対応電話機やファクスなどが必要です。



■ 申し込む ■

最寄りのNTT窓口でINSネット64の加入手続きを行ってください。手続きの詳細については、NTT窓口にご相談ください。

「INS ネット 64 お申込票」の例

【基本機能版】 「INS ネット64/INS ネット64・ライト」 お申込票

契約者 () 回線番号 ()

お申込みされるサービスをお選び下さい
 INS ネット64 INS ネット64・ライト

①お申込年月日 平成 年 月 日 ②ご記入者 お申込者本人・その他() 様
 ③ご利用開始希望日 平成 年 月 日 ④お申込回線数 回線 (フリガナ)

⑤お申込者名 (フリガナ) 様
 ●現在ご利用中の電話番号 有() 無()
 ●同書き等 (フリガナ) 階 号室

⑥INS ネットをご利用になる場所 (原簿に詳細をご記入ください)
 ●同書き等 (フリガナ) 階 号室

⑦お申込者ご住所 (フリガナ) 階 号室

⑧ご連絡先 勤務先 (フリガナ) 様
 ⑨工事立会者 (フリガナ) 様
 ⑩毎月の請求書 (基本料・通信料) の送付先
 ⑩と同じ ⑩と同じ その他(送付先を下記へご記入ください)

⑪電話帳への掲載方法
 掲載する(お載せするお名前を下記へご記入ください) 掲載しない
 電話帳へは掲載しないが、番号案内(104)は行う(案内するお名前: ビル・マンジョン 階 号室)
 お載せするお名前(フリガナ) ハローページ(50階) タウンページ(階) 職業分類 INS 表記
 有 無
 有 無
 有 無
 有 無

⑫電話機の配達 希望する 希望しない

必須項目
 インターネット接続
 P-MP 専用 P-MP 専用 P-P
 P-MP 専用 P-MP 専用 P-P

月額使用料
 サイマルQ 専用 サイマルQ 専用 サイマルQ 専用
 サイマルQ 専用 サイマルQ 専用 サイマルQ 専用

付加機能項目
 希望 希望 希望
 希望 希望 希望
 希望 希望 希望

通信機器
 DSU (お申込みの電話機)
 弊社 他社
 弊社 他社
 弊社 他社
 弊社 他社
 弊社 他社
 弊社 他社

配線工事等
 希望 希望 希望
 希望 希望 希望
 希望 希望 希望

その他
 希望 希望 希望
 希望 希望 希望

契約料 () 円
 月額料 () 円
 工事費 () 円
 機器代金 () 円
 消費税 () 円
 合計 () 円

受付担当 支店名 受付担当者 (99.7.1)



■ 「INS ネット 64 お申込票」への記入のしかた ■

NTT窓口でINSネット64への加入を申し込む場合、「INSネット64お申込票」に必要事項を記入する必要があります。

ここでは、各項目の内容について簡単に説明します。詳しくは、NTT窓口にご直接お問い合わせください。

太枠内の項目

お申込年月日	NTTに「INSネット64/INSネット64・ライト」お申込票を提出する日を記入します。
ご記入者	名前を記入します。
ご利用開始希望日	希望する工事日を記入します。
お申込回線数	申し込む回線数を記入します。
お申込者名	住民票・登記簿上の名前を記入します。
INSネットをご利用になる場所	INSネット64を実際に利用する場所の住所を記入します。
お申込者ご住所	住民票・登記簿上の住所を記入します。
ご連絡先	個人で申し込む場合は、「申込者」と記入します。
工事立会者	個人で申し込む場合は、「申込者」と記入します。
毎月の請求書の送付先	NTTから送付される請求書の送付先を選択または記入します。
電話帳への掲載方法	掲載の有無・番号案内の有無を選択します。
電話帳の配達	希望の有無を選択します。

必須項目

インタフェース形態及びレイヤ1起動種別	「P-MP常時」をお薦めします。
発信者番号表示通知サービス	「通常通知(通話ごと非通知)」をお薦めします。 Atermは初期状態で「INSネット64申込内容に従う」に設定されているため、電話をかける際に発信者番号を相手に通知するようになります。 発信者番号を相手に通知したくないときは、Atermの設定を「通知しない」に変更します。
ユーザ間情報通知サービス	「着信許可」をチェックします。「着信拒否」をチェックすると、電子メール着信通知・UUIメールなどのユーザ間情報通知を利用する機能が使用できなくなります。

付加機能項目

ダイヤルインサービス	<p>3つ以上の電話番号を使い分けたいときは「ダイヤルインサービス」と「グローバル着信」をチェックし、必要な追加番号数を記入します。</p> <p>2つの電話番号を使い分けたいときは「i・ナンバー」がお得です。「i・ナンバー」についてはNTT窓口にご相談ください。</p>
------------	--

その他NTTのサービスについては、NTT窓口にご相談ください。

通信機器

通信機器の名称	<p>AtermITX80をお使いのかたは、お持ちのDSUの機種名を記入して「DSU折り返し機能なし」をチェックし、「PC-ITX80S1A」を記入します。</p> <p>AtermITX70/D、AtermITX80/Dをお使いのかたは、「DSU折り返し機能あり」をチェックし、AtermITX70/Dは「PC-ITX70D1A」を、AtermITX80/Dは「PC-ITX80D1A」を記入します。</p>
メーカー名	「他社」をチェックします。
数量	お使いの数量を記入します。
機器工事	「お客さま」をチェックします。

配線工事等

屋内配線	<p>お客様宅の保安器から壁のモジュラコンセントまでの工事です。いずれかの欄をチェックします。</p>
回線接続装置	<p>AtermITX80をお使いのかたは、「TA別」をチェックします。</p> <p>AtermITX80/D、AtermITX70/Dをお使いのかたは「TA内蔵」をチェックします。</p>
TCP-14Dヒモ・接続用コネクタ・機器配線	<p>使用形態に合わせて選んでください。</p>

2.2 設置場所を確認する

Atermの設置場所を決めます。

■ パソコンを使う方は ■

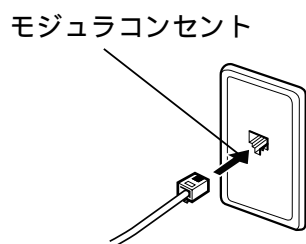
Atermはパソコンのそばに設置してください。
AtermITX70/D、80/Dの場合、添付のINS回線ケーブル(3m)を使って、Atermの回線コネクタと回線側コンセントを接続するので、あらかじめ回線側コンセントの位置を確認しておいてください。回線側コンセントから3m以内の場所にAtermを設置できない場合は、添付のINS回線ケーブルが使用できません。市販の電話機用モジュラケーブルを別途購入してください。

■ 回線側コンセントのタイプは? ■

(AtermITX80/D、70/Dの場合です)

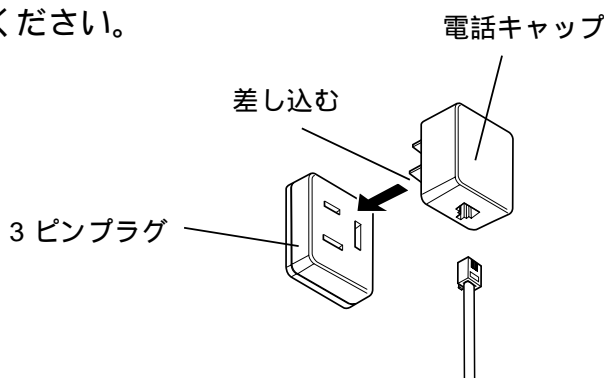
モジュラタイプの場合

そのまま接続できます。



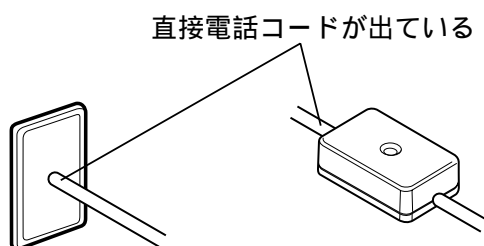
コンセントのタイプが3ピンプラグの場合

電話キャップを別途購入してください。



電話コードが壁から直接出ている場合

NTTに工事を依頼してください。



■ 電話機やファクスの設置場所は？ ■

電話機やファクスなどのアナログ通信機器は、それらの通信機器に付属するモジュラケーブルを使ってAtermに接続します。Atermの設置場所によっては、長いケーブルを購入する必要があります。ただし、モジュラケーブルの長さは200m(太さ0.5mm)以内にしてください。接続する機器の種類によってはさらに短くする必要があります。

■ 電源 ■

Atermには常時、電源を供給する必要があります。パソコンの電源などに連動したコンセントではなく、壁などの電源コンセントに直接接続してください。

? こんなときは

- ・ 停電時にAtermを使うために
あらかじめ電池ホルダーに停電用の電池をセットしておくと、電源が切れた際に自動的に停電モードに入ります。停電時でもアナログAポートに接続した電話機とデータポートやUSBポートに接続したパソコンを使うことができますが、お客様の環境によっては使用できないことがあります。詳しくは、「9. 停電対策」(☞ 9-1ページ)をお読みください。



2.3 Aterm を設置する

Atermを設置します。まずは、もっともよく使うアナログ通信機器(電話機またはファクス)を1台接続します。

2台目以降のアナログ通信機器やパソコンはあとで接続します(☎ 2-20ページ)。パソコンをお使いの方は、Atermをパソコンのそばに設置してください。

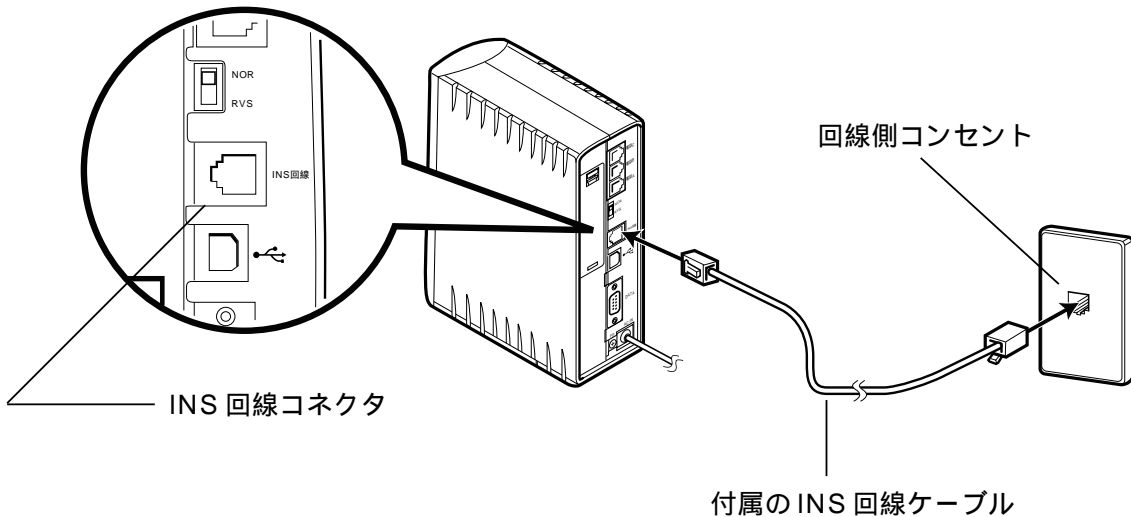
1. INSネット64の工事が完了していることを確認する

工事が完了していないと、Atermは使用できません。

2. Atermを回線側コンセントに接続する

AtermITX70/D、AtermITX80/Dの場合

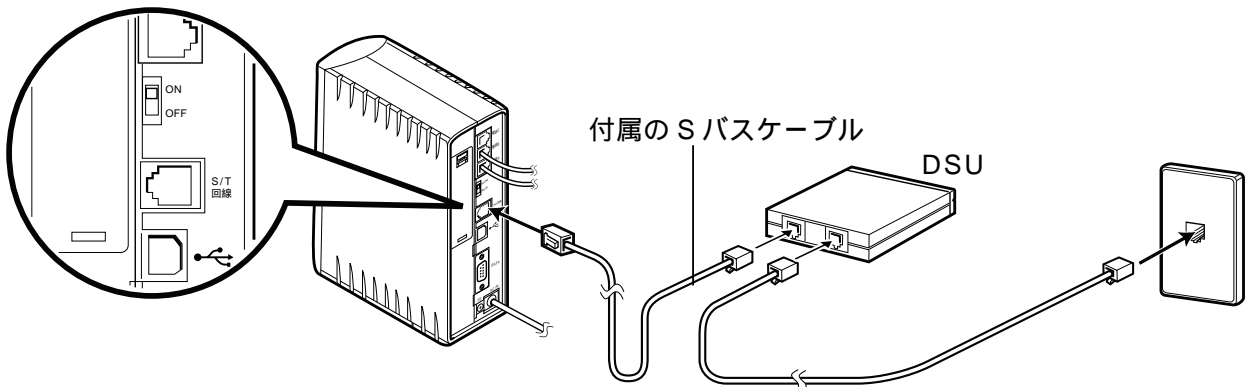
付属のINS回線ケーブルを使い、AtermのINS回線コネクタと回線側コンセントを接続します。



AtermITX80の場合

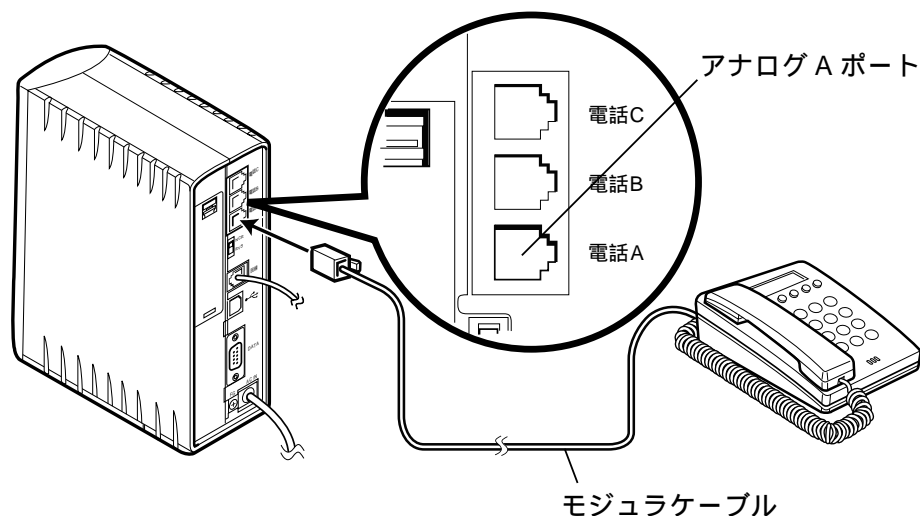
別途DSUを購入し(工事が必要になる場合もあります) 次のように接続します。

- 1) 差し込み口(モジューラジャック)に付属のSバスケーブルを差し込みます。
- 2) AtermのS/T回線コネクタにSバスケーブルの残りの一端を差し込みます。
- 3) 終端抵抗切替スイッチを「ON」にします。



3. アナログ通信機器をアナログAポートに接続する

モジュラケーブルを使って、電話機をAtermのアナログAポートに接続します。モジュラケーブルとは、アナログ回線のために、壁の電話回線側コンセントに差し込まれていたケーブルです。



4. 電話機の回線種別を「トーン」に切り替える

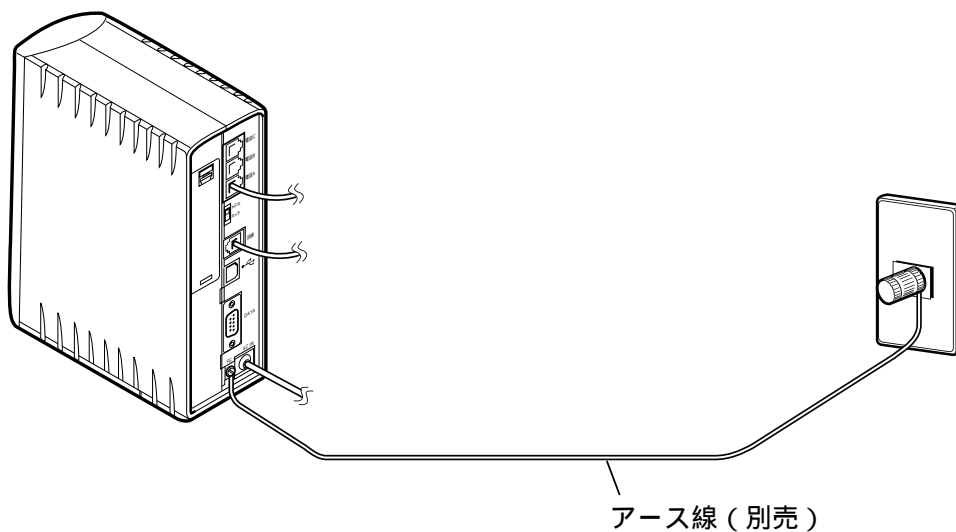
接続した電話機やファクスの回線種別を、「トーン(プッシュ)」の方に切り替えます。切り替えの方法については、お使いの電話機やファクスの取扱説明書をお読みください。今までプッシュホン契約をしていた場合は、この操作は必要ありません。

5. アース線を接続する

Atermのアース接続端子と壁のアース端子を接続します。

アース線は付属していません。別途購入してください。

アース線は、落雷などが起こった場合に、人身への損害や機器の損傷を防止するためのものです。

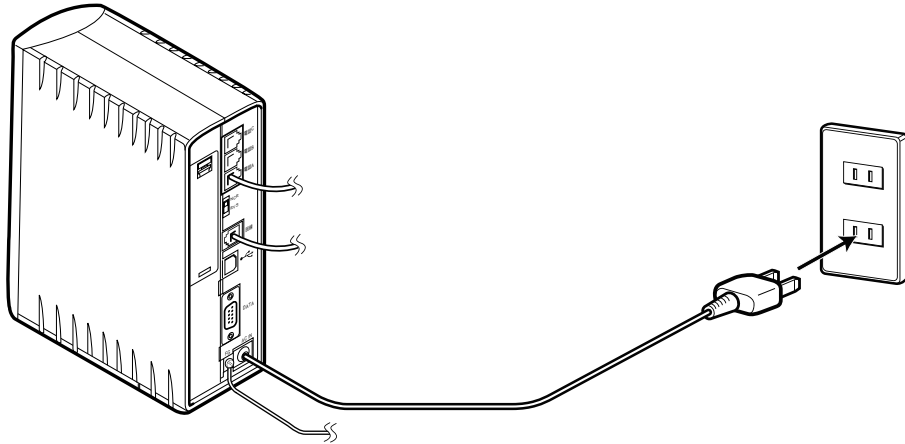




6. 電源コードを接続する

Atermの電源コードを電源コンセントに接続します。

Atermには常時、電源を供給する必要があります。パソコンの電源などに連動したコンセントではなく、壁などの電源コンセントに直接接続してください。



◆ ご注意

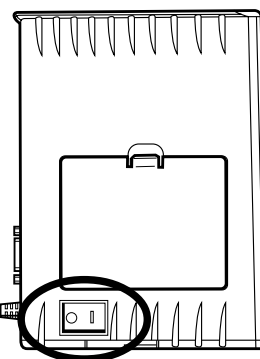
- ケーブルは絶対に屋外に出さないように配線してください。雷などによる障害の原因となります。
- 停電時に利用できるのは、アナログAポートに接続した電話機またはファクス（電話機能のみ）だけです。停電対策については、「9. 停電対策（☞ 9-1ページ）をお読みください。
- アナログポートに接続できるのは、端末審査協会適合マーク「㊿」または「㊿」がついている通信機器です。ただし、Atermのアナログポートでは疑似的なアナログ回線を作っているだけで本当のアナログ回線とは異なるため、使用できない通信機器もあります。
- 3口のローゼットなどを使うと、1つのアナログポートに3台（合計容量：3 μ F/2k Ω 以下）までブランチ接続ができます。ただし、一時に通話できるのはその中の1台だけです。
- 電話機（ファクス）を接続するモジュラケーブルの長さは200m（太さ0.5mm）以内にしてください。機器の種類によってはさらに短くしなければならないことがあります。
- 落雷およびノイズ対策
回線や電源コードから入り込むノイズ（雷など）から装置を保護するためにアース線の接続と、別売りの雷防護アダプタ（PC-IT/SP01）のご使用をおすすめします（アース線は別途ご用意ください）。ただし、雷防護アダプタを使用しても落雷の程度によっては、二次災害を防止するために装置内の一部分が破壊されることがあります。落雷などの天災地変による故障の場合は、保証期間内でも有料修理となりますのであらかじめご了承ください。

2.4 電源を入れる

接続が終わったら、Atermの電源を入れます。

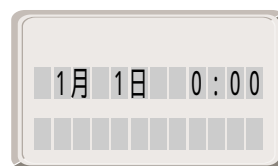
Aterm側面の電源スイッチの「I」側を押します。

電源スイッチ

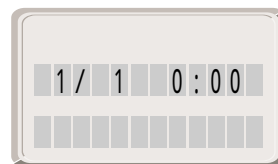


Aterm前面のPOWERランプが緑色に点灯し、ディスプレイに日付と時刻が表示されます。

AtermITX70/D

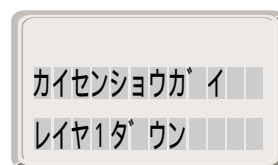


AtermITX80、80/D



? こんなときは

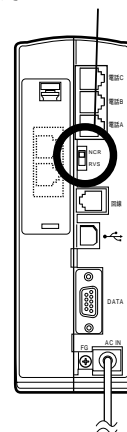
「カイセンショウガイ レイヤ1ダウン」と表示された場合、INSネット64が正常に接続されていません(同期がとれていません)。



下記の項目を順に試して障害を回復してください。

- ・ INS回線ケーブルの接続を確認する
いったん電源を切り、Atermの回線コネクタと回線用コンセントが正しく接続されていることを確認します。再度電源を入れてください。
AtermITX80の場合は、Atermの回線コネクタとDSUが正しく接続されていることを確認してください。
- ・ リバーススイッチの設定(回線の極性)を確認する
(AtermITX80/D、AtermITX70/Dの場合)
電源を切り、Aterm背面のINS回線リバーススイッチを「RVS」側に切り替えます。再度電源を入れてください。
これで問題が解消されない場合は、必ずリバーススイッチをもと(「NOR」側)に戻してください。

INS 回線リバーススイッチ





- ・ 終端抵抗を確認する
(AtermITX80の場合)
Aterm背面の終端抵抗切替スイッチを「ON」にしてください。
- ・ Atermを初期化する
Atermの設定を購入時の状態に戻します。Atermを初期化する方法については、「10. Atermを出荷時の状態に戻す」(☞ 10-1ページ)をお読みください。
- ・ INSネット64への切り替えが完了しているかをNTTに確認する
INSネット64への切り替えが完了しているかどうかを、NTTに確認してください。
- ・ 回線にガスの自動検針器が接続されていないことを確認する
アナログ回線からINSネット64に契約を切り替えた場合、回線にガスの自動検針器が接続されたままになっていることがあります。ガス供給業者に問い合わせて、接続されている場合は、撤去を依頼してください。

「カイセンショウガイ レイヤ2ダウン」と表示された場合、INSネット64のレイヤ2の同期がとれていません。

- ・ 回線にガスの自動検針器が接続されていないことを確認する
アナログ回線からINSネット64に契約を切り替えた場合、回線にガスの自動検針器が接続されたままになっていることがあります。ガス供給業者に問い合わせ、接続されている場合は撤去を依頼してください。
- ・ Atermの自己診断を行う
「12.5 自己診断」(☞ 12-30ページ)を参照して、Atermの自己診断を行ってください。

上記のすべてを確認しても解決しないときは、Atermが故障している場合があります。最寄りのNECサービスステーション(☞ 付-21ページ)へお問い合わせください。

📌 ご注意

電源を切ると、Atermに接続した電話機やファクスなどで通信や通話ができなくなります。

2.5 電話が使えることを確かめる

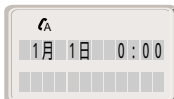
契約者回線番号を使って、接続した電話機(ファクス)が使えることを確認します。ここでは、基本的な電話のかけかた・受けかたについて説明します。電話機の操作方法については、接続した電話機の取扱説明書をお読みください。

2.5.1 電話をかける

接続した電話機から、電話をかけます。発信音が聞こえ、通話できることを確認してください。

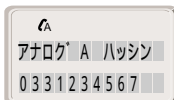
1. 電話機を受話器をあげる

「ツー」という音が聞こえ、ディスプレイに使用しているアナログポート名(ここではAポート)が表示されます。

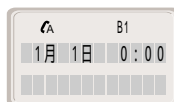


2. 相手の電話番号をダイヤルする

ダイヤル後、約5秒(工場出荷時の値)たってから発信します。ダイヤル後、続けて **#** を押すと、すぐに発信します。

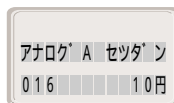


3. 相手の方と話しをする



4. 通話が終わったら、受話器を戻す

「アナログAセツダン」と表示され、今かけた通話の料金が表示されます。



? こんなときは

- 手順1で、受話器をあげても「A」が表示されない場合は、Atermと電話機がきちんと接続されているかどうかを確認してください。
- 「#」を含む電話番号に電話をかける場合は、**#** 発信の設定を解除する必要があります。詳しくは、「8. 電話機からの設定操作一覧」(☞ 8-8ページ)をお読みください。
- LCR内蔵の電話機から電話をかけると、ダイヤルを終える前に発信することがあります。このような場合は、「ダイヤル桁間タイマ」の設定を9秒以上に変更してください。詳しくは、「8. 電話機からの設定操作一覧」(☞ 8-3ページ)をお読みください。
- 電話がかかけられない場合は、次のような原因が考えられます。詳しくは、「12. お困りのときには」(☞ 12-4ページ)をお読みください。

受話器をあげても音がしない場合

- Atermの電源が入っていない
電源コードを電源コンセントに差し込んでください。
電源スイッチの「I」側を押した状態にしてください。
電源コードをパソコンの電源などに連動したコンセントに差し込んでいるときは、壁などの電源コンセントに接続し直してください。
- Atermと電話機が正しく接続されていない
Atermのアナログポートと電話機の回線(LINE)コネクタを電話機に添付されているケーブルで接続してください。

電話が繋がらない場合

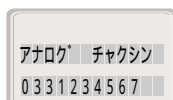
- 電話機の回線種別の設定がトーン(PB)になっていない
電話機の回線種別をトーン(PB)に設定してください。設定方法については、電話機の取扱説明書をお読みください。

2.5.2 電話を受ける

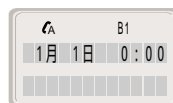
友人に依頼するか、携帯電話やPHSから契約者回線番号に電話をかけます。接続した電話機の着信音が鳴り、通話できることを確認してください。

1. 着信音が鳴る

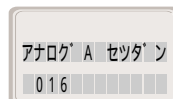
「アナログチャクシン」と表示されます。INSナンバー・ディスプレイを契約していて、相手が発信者番号を通知している場合は、通話相手の電話番号が表示されます。



2. 受話器をあげて相手の方と通話する



3. 通話が終わったら、受話器を戻す 「アナログAセツダン」と表示されます。



2.5.3 通話を保留するときは

通話を一時中断し、相手の方に待ってもらう場合は、お使いの電話機の保留操作に従ってください。

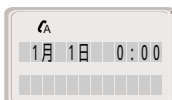
ここまで正常に動作すれば、とりあえず電話が使えるところまでは終了です。このあと、取扱説明書に従って順に接続・設定を進めていってください。

2.6 日時をセットする

接続した電話機を使って、Atermの日付と時刻を合わせます。

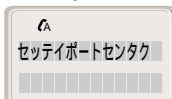
1. 電話機の手話器をあげる

日付と時刻は通電中はいつも表示されています。ディスプレイに使用しているアナログポート名(ここではAポート)が表示されます。



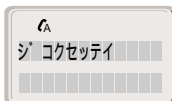
2. * * 1 * を順に押す

「セッテイポートセンタク」と表示されます。



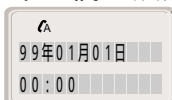
3. 9 を押す

「ジコクセッテイ」と表示されます。



4. * を押す

「99年01月01日00:00」と表示され、年の欄が点滅します。



5. 年・月・日・時・分の順に設定する

変更する必要のない欄(年・月・日・時・分)をとばす場合、* を押します。* を押すごとに、点滅する欄が移動します。

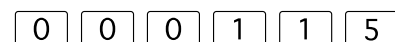
変更したい欄で、それぞれに対応するダイヤルボタンを押します。

年 : 西暦の下2ケタを入力します。

月・日 : それぞれ2ケタで入力します。

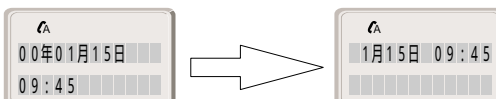
時・分 : 24時間制で入力します。

(例)2000年1月15日午前9時45分の場合



6. # を押す

入力した年月日と時刻が表示され、5秒後に月日と時刻の表示に変わります。

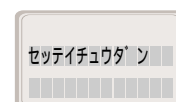


7. 手話器を戻す

日付と時刻の設定が完了しました。

? こんなときは

- 手順2で、「ポートシヨウチュウセッテイフカ」と表示された場合、他のポートが通話や通信で使用されています。通話や通信を終わらせてから操作し直してください。
- 設定を途中で中断したいときは、手話器を戻します。「セッテイチュウダン」と表示され、それまでの設定内容が取り消されます。



2.7 バックライトの点灯モードを設定する

液晶ディスプレイのバックライトには、以下の5つの点灯モードが用意されています。使いかたに合わせて設定を変更してください。

点灯モード

Atermの電源が入っているときは、常時点灯します。ただし、停電モードのときは点灯しません。

AUTOモード(初期値)

電話の発信・着信中にだけ点灯し、通常は消えています。ただし、停電モードのときは、発信・着信があっても点灯しません。

AUTO+データ通信中点灯モード

電話の発信・着信中のほか、データ通信中にも点灯します。

AUTOモード+Bチャンネル使用中点灯モード

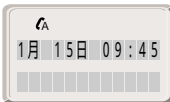
電話の発信・着信中のほか、電話の通話中とデータ通信中にも点灯します。

消灯モード

バックライトは点灯しません。

1. 電話機の手話器をあげる

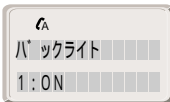
ディスプレイに使用しているアナログポート名(ここではAポート)が表示されます。



2. 点灯モードを選択する

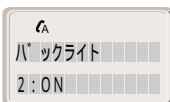
点灯モードの場合:

***** ***** **8** **0** **1** を押します。



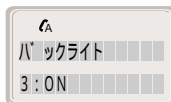
AUTOモードの場合:

***** ***** **8** **0** **2** を押します。



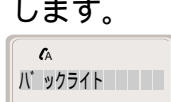
AUTO+データ通信中点灯モードの場合:

***** ***** **8** **0** **3** を押します。



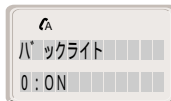
AUTO+Bチャンネル使用中点灯モードの場合:

***** ***** **8** **0** **4** を押します。



消灯モードの場合:

***** ***** **8** **0** **0** を押します。



3. 手話器を戻す

液晶ディスプレイのバックライトは、選択したモードに従って点灯します。

2
バックライトの点灯モードを設定する

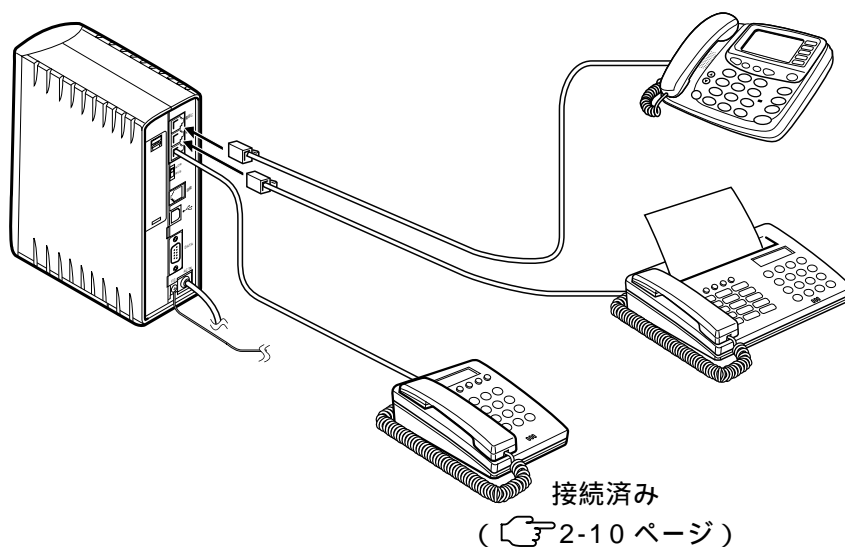
アナログBポートおよびアナログCポートを使用せず、パソコンも接続しない方は「2.11.3 電話機からの設定」(☞2-59ページ)へ進んでください。それ以外の方は引き続き接続・設定操作を進めてください。

2.8 2台目のアナログ通信機器を接続する

2台目、3台目の電話機やファクス、モデムなどを使用する場合はアナログBポートやCポートに接続します。

1. アナログ通信機器をアナログBポート、Cポートに接続する

モジュラケーブルを使って、2台目、3台目のアナログ通信機器を、アナログBポートやCポートに接続します。



2
2台目のアナログ通信機器を接続する

2. 電話機の回線種別を「トーン」に切り替える

接続した電話機やファクスの回線種別を、「トーン(プッシュ)」に切り替えます。切り替えの方法については、お使いの電話機やファクスの取扱説明書をお読みください。今までプッシュホン契約をしていた場合は、この操作は必要ありません。

3. すべてのアナログ通信機器が使えるようにセットアップする

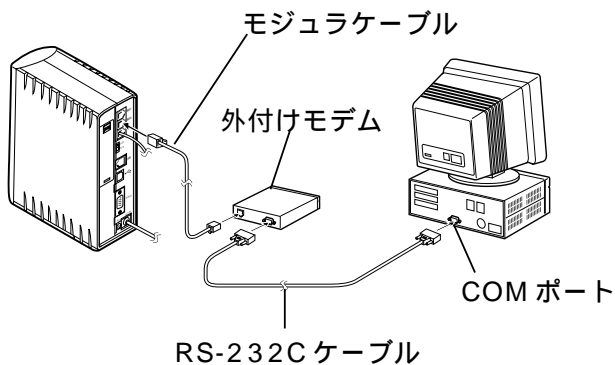
このあと、Atermに電話番号・機種などを設定する必要があります。それぞれ下記のページに進んでください。

- | | |
|-----------------|------------------------------------|
| Windowsをお使いの方 | 「2.9.1 Windowsをお使いの方」(☞ 2-20ページ) |
| Macintoshをお使いの方 | 「2.9.2 Macintoshをお使いの方」(☞ 2-35ページ) |
| パソコンを使わない方 | 「2.11.3 電話機からの設定」(☞ 2-59ページ) |

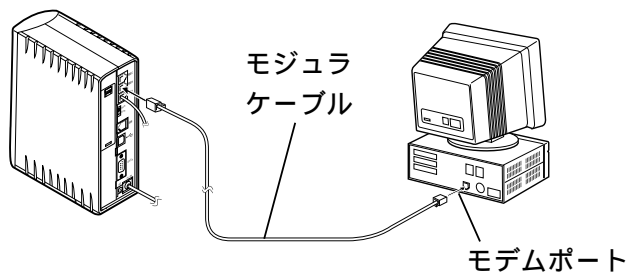
●ご参考・・・・・・・・

インターネットメールやホームページの閲覧など、インターネットを使う場合にはモデムの接続は不要ですが、モデムのFAX機能を使う場合には、下記の方法でモデムとAtermを接続してください。

- ・ 外付けモデムの場合： Atermのアナログポートとモデムをモジュラケーブルで接続し、モデムのデータポートとパソコンのCOMポートをRS-232Cケーブルで接続します。



- ・ モデム内蔵パソコンの場合： パソコンのモデムポートとAtermのアナログポートをモジュラケーブルで接続します。



いずれの場合も、パソコンでAtermを使用する場合はモデムの接続とは別に、AtermのデータポートまたはUSBポートとパソコンを接続する必要があります。

2.9 パソコンを接続する

パソコンを接続し、らくらくウィザードやらくらくユーティリティなどをインストールすると、Atermの設定がパソコンから楽に行えます。

2.9.1 Windows をお使いの方

2.9.1.1 パソコンの接続

WindowsパソコンのUSBポート・COM(シリアル)ポートのどちらでもAtermに接続できます。両方を使えるパソコンの場合は、USBポートの使用をお勧めします。

■ 接続ポートの選択 ■

USBポートのメリット

USBポートを使ってパソコンを接続すると、USB専用の通信機能が利用できます。

- ITMUXステータス for USBユーティリティ機能
128 kbpsマルチリンクPPP通信中に、使用するBチャンネルの切り替え(リンク削除/リンク追加)を手動で行うことができます。また、ITMUX通信中などに回線やデータポートごとの状態表示を行うことができます。詳しくは、「6.3 ITMUXステータス for USBユーティリティ(USB専用)」(☞6-6ページ)をお読みください。
- 着信履歴 for USB ユーティリティ 機能
Atermに保存された着信履歴をパソコン上に表示して確認できます。詳しくは、「6.2 着信履歴 for USB ユーティリティ(USB専用)」(☞6-4ページ)をお読みください。

USBポートが使えるかを確認する

- USBポートでパソコンを接続する場合、お使いのパソコンにUSBポートが装備されていることを確認してください。USBポートが装備されていても、パソコンの機種やOSによっては、使用できない場合や制限のある場合があります。USBポートで接続できるパソコンは、Windows98またはWindows95のOEM Service Release 2.1 (OSR2.1)以降のバージョンが搭載されているものです。詳しくは「12. お困りのときには」(☞12-24ページ)をお読みください。
- 添付されているUSBケーブルは1本です。パソコンを2台接続する場合は、別売りのUSBケーブル(PC-IT/K02)をお買い求めください。

USBポートが使えない場合

COM(シリアル)ポートを使います。

■ USBポートに接続する ■

USBポートへの接続は、らくらくウィザードの実行中に指示があつてから行います。

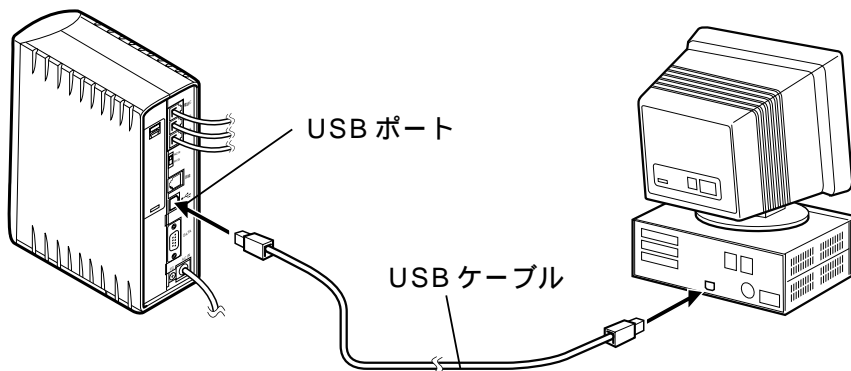
▼ ご注意

- らくらくユーティリティのインストール前にパソコンとAtermを接続しないでください。先に接続してしまうと、不要なUSBドライバがセットアップされてしまい、らくらくユーティリティでうまくセットアップできなくなります。間違つてケーブルを接続し、ハードウェアウィザードが起動した場合は、[キャンセル] をクリックしてください。
- Atermが「不明なデバイス」として認識されてしまった場合は、次の手順で「不明なデバイス」を削除してください。
 - 1 [コントロールパネル] の [システム] をダブルクリックする
 - 2 [デバイスマネージャ] タブの [不明なデバイス] を選択し、[削除] ボタンをクリックする

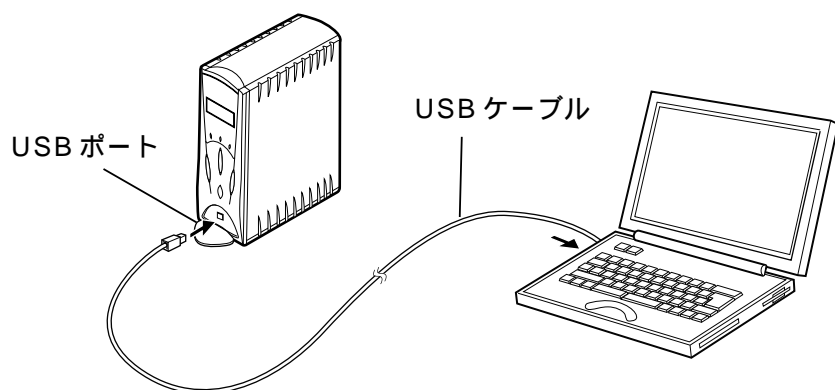
● ご参考

- らくらくウィザードの実行中にUSBドライバがインストールされます。
 - USBドライバを手動でインストールする場合は、USBケーブルを接続する前にインストールしてください。
「2.9.1.3 USBドライバの手動インストール」(☞ 2-26ページ)
1. 添付のUSBケーブルを使って、AtermとパソコンのUSBポートを接続する
ITX80、80/Dには、前面と背面に2つのUSBポートが用意されています。パソコンを1台しか接続しない場合は、前面・背面のどちらに接続してもかまいません。

背面のUSBポートに接続する場合



前面のUSBポートに接続する場合
前面のUSBポートのカバーを開きます。

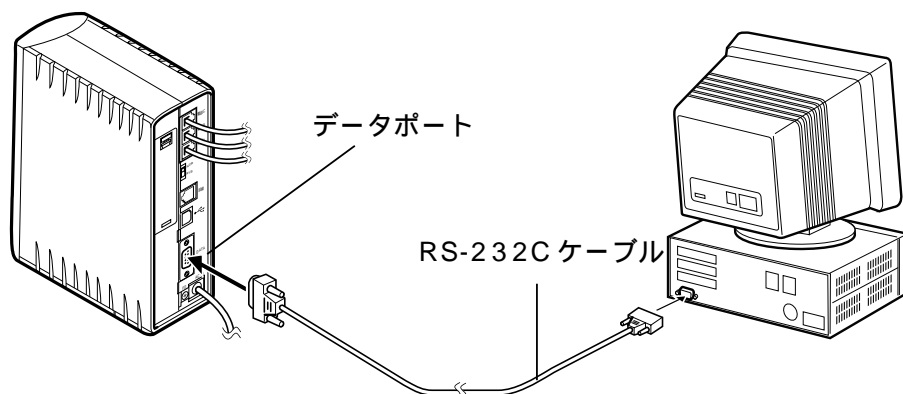


■ COM (シリアル) ポートに接続する ■

らくらくユーティリティのインストール前に接続します。

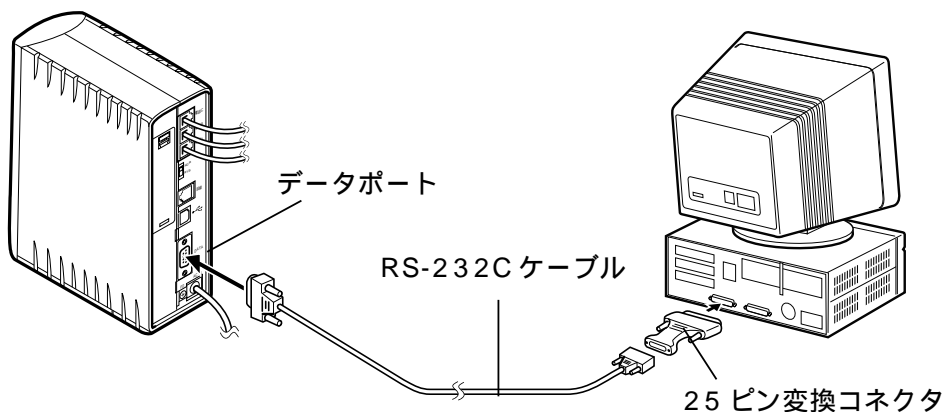
1. 添付のRS-232Cケーブルを使って、AtermのデータポートとパソコンのCOMポート(シリアルポート)を接続する

PC98NXまたはDOS/Vパソコンに接続する場合



PC9800シリーズのパソコンに接続する場合

- 1) 添付のRS-232Cケーブルに25ピン変換コネクタ(市販の25ピン変換コネクタを別途購入してください)を接続する。
- 2) RS-232Cケーブル側のコネクタ(9ピン)をAtermのデータポートに接続し、25ピン変換コネクタをパソコンのCOMポートに接続する。



2.9.1.2 らくらくユーティリティとらくらくウィザードのインストール

CD-ROMのメニュー「らくらくユーティリティ(Windows98/95/NT4.0用のインストール)」を実行して便利なユーティリティ*1をインストールできます。

*1 らくらくウィザード、らくらくユーティリティとヘルプ、らくらくバージョンアップなど

らくらくウィザードでは、

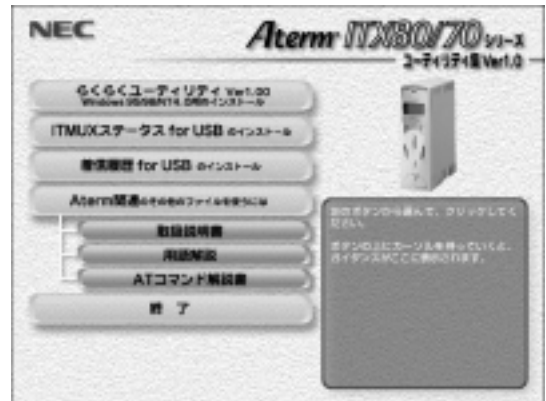
- 基本的なアナログポートの設定
- インターネット接続の設定
- ターミナルアダプタの設定の確認

などを行うことができます。

はじめてらくらくウィザードを実行した時にはUSBドライバのインストール(USB接続時)を自動で行うなど、らくらくウィザードは手動で設定する時の煩わしさを解決しています。

らくらくユーティリティは、Atermの豊富な機能をご利用になるための設定を行うことができます。

1. Windows98/95を起動する
2. 添付のCD-ROMをセットする
次の画面が表示されます。
3. メニュー画面が表示されたら[らくらくユーティリティ(Windows98/95/NT4.0用のインストール)]をクリックする



4. [次へ] ボタンをクリックする



5. [次へ] ボタンをクリックする



6. 画面を読み、同意できる場合は[次へ] ボタンをクリックする

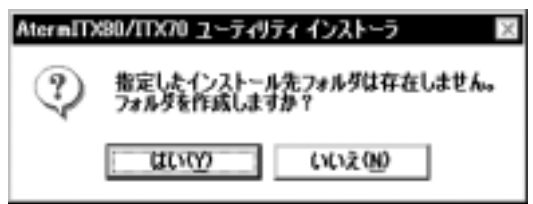


7. [次へ] ボタンをクリックする

インストール先のドライブやフォルダを変更する場合は、[参照] ボタンをクリックし、表示された画面でインストール先を指定します。



8. [はい] ボタンをクリックする



プログラムフォルダが作成され、各アイコンが表示されます。



しばらくすると、らくらくユーティリティインストーラ画面に戻り、「インストールが完了しました」というメッセージが表示されます。

9. [READMEの表示] にチェックが入っていることを確認し、[完了] ボタンをクリックする。



10. Readmeをよく読んだ後、画面右端の [閉じる] ボタンをクリックする。インストールが完了します。



11. しばらくウィザードが起動したら、[次へ] ボタンをクリックする

しばらくウィザードが起動しない場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[プログラム]-[AtermITX80/ITX70ユーティリティ]-[AtermITX80/ITX70しばらくウィザード]を選択してください。



12. [次へ] ボタンをクリックする

他のアプリケーションが起動している場合は、すべて終了させてください。

13. 接続ポートを選択し、ドライバをインストールする



COMポートに接続する場合

- 1) RS-232CケーブルでパソコンとAtermを接続する
- 2) 「RS-232Cケーブルで接続」を選択し、[次へ] ボタンをクリックする
- 3) 接続ポートを確認し、[次へ] ボタンをクリックする

USBポートに接続する場合

- 1) 「USBケーブルで接続」を選択し、[次へ] ボタンをクリックする
- USBケーブルはまだ接続しないでください。



- 2) [次へ] ボタンをクリックする
- 3) [実行] ボタンをクリックする
- 4) 次の画面が表示されたらUSBケーブルでパソコンとAtermを接続する



- 5) [再起動] ボタンをクリックし、Windowsを再起動する



2 パソコンを接続する Windowsをお使いの方

14. ウィザードのメニュー画面が表示される

続けて各種の作業を選択できます。



15. ウィザードを終了するときには[ウィザード終了]ボタンをクリックする

? こんなときは

メニュー画面が表示されない場合は、以下の操作を行います。

- 1) Windowsの[スタート]ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行]を選択する。
- 2) [Util]フォルダ - [Wizard]フォルダ - [Setup.exe]を順にダブルクリックします。
名前の横にCD-ROMドライブ名に続けて、「Util¥Wizard¥Setup.exe」と入力し、[OK]ボタンをクリックする。

2.9.1.3 USB ドライバの手動インストール

USBポートでAtermを使用する場合は、ユニバーサル シリアルバス コントローラとCOMポートへの組み込みが必要です。

Windows98をお使いの場合は、らくらくウィザードで自動インストールされますが、うまくインストールされない場合、あるいはWindows95でUSBポートを利用する場合は、以下の手順で手動インストールを行ってください。

⚠️ ご注意

- お使いのパソコンによっては、画面が本書で説明している画面と異なる場合があります。
- Aterm ITシリーズのUSBドライバが組み込まれたパソコンでは、Aterm ITX80、80/D、70/DをUSB接続で利用できません。Aterm ITシリーズのUSBドライバをアンインストールしてからITXシリーズのUSBドライバのインストールを行ってください。

2 パソコンを接続する Windowsをお使いの方

■ Windows95 をお使いの方へ ■

Windows95でUSBポートをお使いになる場合は、Windows95やUSBコントローラ用デバイスドライバのバージョンに制限があります。AtermのUSBドライバなどをインストールする前に以下の説明を読みください。

▼ ご注意

- ・ OHCIコントローラ採用のパソコンの場合、シャットダウンできないことがあります。
「12.2 Windows98/95のUSBについてのQ&A」(☞12-24ページ)
- ・ USBケーブルの抜き差しでパソコンが停止することがあります。
- ・ その他、動作が不安定になるときは、Windows98にバージョンアップしてお使いください。

Windowsのバージョンを確認する

Windows95でUSBをサポートしているのは、OEM Service Release2.1(OSR2.1)以降です。これ以外のバージョンに、USBドライバをインストールしてもAtermは動作しません。お使いのWindowsのバージョンは次の方法で確認できます。

1. [コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックする
2. [全般]タブでWindowsのバージョンを確認する

Windows98なら[Microsoft Windows98 4.10.1998]、Windows95のOSR2.1以降なら[Microsoft Windows95 4.00.950B]または[Microsoft Windows95 4.00.950C]と表示されます。

・ Windows98の場合



・ Windows95の場合



? こんなときは

Windows95のバージョンが「4.00.950」または「4.00.950a」の場合は

USBポートのあるパソコンをお使いの場合は、バージョン「4.00.950B」相当へのアップデートが必要です。アップデート方法などについては、お使いのパソコンのメーカーにお問い合わせください。

2 ご注意

パソコンのメーカーで動作保証をしていないUSBソフトウェアを、Windows95のバージョン「4.00.950」または「4.00.950a」がインストールされているパソコンにインストールしないでください。Windows95が動作しなくなることがあります。

USBドライバのインストールを確認する

Windows95でUSBをお使いになる場合、USBコントローラ用デバイスドライバが必要です。お使いのパソコンによってはUSBコントローラ用デバイスドライバがインストールされていないかもしれませんので、インストールされているかどうかを確認します。

1. [コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックする
2. [セットアップと削除]タブで[USB Supplement to OSR2]の表示を確認する



[USB Supplement to OSR2]が表示されない場合、USBコントローラ用デバイスドライバがインストールされていない可能性があります。お使いのパソコンのメーカーにお問い合わせください。

注意

- [セットアップと削除] タブで [USB Supplement to OSR2] をダブルクリックしないでください。USBコントローラ用デバイスドライバが削除されてしまいます。
- NEC製PC98-NXシリーズの場合、[USB Supplement to OSR2] は表示されませんが、USBコントローラ用デバイスドライバはインストールされています。
- [USB Supplement to OSR2] がインストールされていても、BIOS設定を行わないと、USBポートが使用できない機種があります。BIOSの設定は、お使いのパソコンの取扱説明書をお読みください。

USBドライバのバージョンを確認する

インストールされていることを確認できたら、USBコントローラ用デバイスドライバのバージョンを確認します。

1. [スタート] ボタンをクリックし、[検索] - [ファイルやフォルダ] を選択する
5. [バージョン情報] タブをクリックし、ファイルのバージョンを確認する

2. 名前に「USB.D.SYS」を入力し、探す場所にWindows95がインストールされているハードディスクドライブを指定し、[サブフォルダも探す] をチェックする



3. [検索開始] ボタンをクリックする
4. 検索されたファイル [USB.D.SYS] を右クリックし、ポップアップメニューから [プロパティ] を選択する



「4.03.1212」の場合は、動作しません。

■ ユニバーサルシリアルバスコントローラを組み込む ■

Windowsのユニバーサルシリアルバスコントローラに、Aterm IT-USB USBPort Adapterを組み込みます。Atermの添付CD-ROMが必要です。

1. Windowsを起動する
2. USBケーブルでパソコンとAtermを接続する

◆ ご注意

コネクタには向きがあります。パソコン側の端子の形にコネクタが合うように奥までしっかりと差し込みます。

3. Atermの電源を入れる
新しいハードウェアの追加ウィザードが起動します。
4. [次へ] ボタンをクリックする
7. CD-ROM内の¥USB¥Win98フォルダを選択し、[OK] ボタンをクリックする
Windows 95 をご使用の場合は、¥USB¥Win95フォルダを選択してください。



5. 添付CD-ROMをドライブにセットする
6. [検索場所の指定] をチェックし、[参照] ボタンをクリックする



8. [次へ] ボタンをクリックする





9. [次へ] ボタンをクリックする



10. インストールが完了したら[完了] ボタンをクリックする



11. インストールを確認する

[コントロールパネル]の[システム] アイコンをダブルクリックし、[デバイスマネージャ]タブの[ユニバーサルシリアルバスコントローラ]のところに [Aterm IT-USB USBPort Adapter]が表示されているのを確認します。



? こんなときは

[Aterm IT-USB USBPort Adapter]の頭に黄色い (!) が表示されたときは、正しくインストールされていません。いったんアンインストールしてから、インストールをやり直してください。

「USBドライバをアンインストールする」(☞2-34ページ)

■ COMポートへ組み込む ■

Aterm IT-USB COMPort AdapterをCOMポートへ組み込みます。WindowsのCD-ROMが必要になることがあります。

1. [コントロールパネル]の[ハードウェアの追加]アイコンをダブルクリックする

新しいハードウェアの追加ウィザードが起動します。

2. [次へ] ボタンをクリックする

3. [次へ] ボタンをクリックする



4. [いいえ] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする



5. [ポート (COM / LPT)] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする



6. [製造元] から「NEC」を、[モデル] から「Aterm IT-USB COMPort Adapter」を選択し、[次へ] ボタンをクリックする



7. リソースの割り当てを確認し、[次へ] ボタンをクリックする



8. インストールが完了したら [完了] ボタンをクリックする



9. [はい] ボタンをクリックする
Windowsが終了します。



10. 手動で再起動する
自動的に再起動しませんので、パソコンの電源を入れ直すなどしてください。

11. インストールを確認する
[コントロールパネル] の [システム] アイコンをダブルクリックし、[デバイスマネージャ] タブで [ポート (COM / LPT)] のところに [Aterm IT-USB COMPort Adapter (COM x)] が表示されているのを確認します。
COMポートの番号は、お使いのパソコンの状況によって異なります。

・ Windows95のCD-ROMを使う場合

- 1) CD-ROMをセットし、[OK] ボタンをクリックする
- 2) [参照] ボタンをクリックする
- 3) CD-ROM内の¥Win95フォルダを選択し、[OK] ボタンをクリックする
- 4) ファイルのコピー画面の[OK] ボタンをクリックする

■ USB ドライバをアンインストールする ■

Atermを正常にインストールできなかった場合やパソコンをUSBドライバインストール前の状態に戻したい場合、USBドライバのアンインストールを行います。

アンインストーラを使用する方法

1. 起動中のアプリケーションをすべて終了させる
2. 添付CD-ROMをドライブにセットする
しばらくするとメニュー画面が表示されます。
3. [終了] をクリックしてメニュー画面を閉じる
4. [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] を選択する
5. 名前に < CD-ROMドライブ > : ¥USB¥ ITUSBUNINST.EXE を指定し、[OK] ボタンをクリックする
アンインストーラが起動します。
画面の指示にしたがってアンインストール作業を行います。

2.9.2 Macintosh をお使いの方

2.9.2.1 接続ポートの選択

USBポートが使えるかを確認する

お使いのMacintoshにUSBポートが装備されていることを確認してください。動作可能な機種は、次のとおりです(1999年11月時点)。

(1) 「iMac」の場合

OS:MacOS 8.5J(または8.5.1J) またはOS:MacOS 8.6
MacOS ROM 1.2.1

5色のColor iMacではすでに上記環境(OS 8.5J)になっています。

MacOSが8.5J(または8.5.1J)でMacOS ROM 1.2.1でないiMacでは、アップルホームページ上の

- iMac Firmware Update 1.0
(iMac Firmware 3.0のインストール)
- iMac Update 1.1
(1999年2月末日現在のVersion)

を配布されている手順書通りに必ず実行してください。(MacOS ROM 1.2.1になります)

上記のインストールおよびアップデートが完了すると、「アップルメニュー」から「このコンピュータについて」を開き「Mac OS J1-8.5(または8.5.1)Mac OS ROM J1-1.2.1」となっていることをご確認ください。



(2) 「Power Macintosh G3」の場合

OS:MacOS 8.5J(または8.5.1J)
MacOS ROM 1.2b

Power Macintosh G3はすでに上記環境(OS 8.5J)になっています。

iMacの場合と同様に「このコンピュータについて」を開いて「Mac OS J1-8.5(または8.5.1)Mac OS ROM J1-1.2b」となっていることをご確認ください。

ご利用のパソコンの環境がUSBポートで使えることが確認できたら
「2.9.2.2 USBポートへ接続する場合」(2-37ページ)
へ進んでください。そうでない場合は、
「2.9.2.3 シリアルポートへ接続する場合」(2-39ページ)
へ進んでください。

ご注意

- USBネットワークはMacintoshでは利用できません。
- USB関連のユーティリティ(ITMUXステータス、着信履歴ユーティリティ)は、Macintoshでは利用できません。
- ご利用の環境によっては、Macintoshのスリープ機能動作時に、キーボードやマウスからスリープの復帰ができなくなることがあります。この場合、キーボードとMacintosh本体を接続しているUSBケーブルを一度抜いて、差し直してください。これで問題が解消されないときは、「12. お困りのときには」(12-16ページ)をお読みください。
- 頻繁にフリーズやエラーが発生する環境では、USBの動作が安定しません。この場合、新たにMacintoshのシステムを再構築してからUSBドライバのインストールを行うことをおすすめします。

? こんなときは

お使いのMacintoshのOSバージョンがわからないときは、アップルメニューの「このコンピュータについて」を選択して確認してください。






2.9.2.2 USBポートへ接続する場合

■ インストーラを使って次のものをインストールします ■

- USBドライバ
- CCLファイル
- らくらくウィザード
- らくらくユーティリティ

1. Macintoshを起動する
2. 添付のCD-ROMをセットする
3. [AtermIT]アイコンをダブルクリックする
4. [ITX80/ITX70ユーティリティ]フォルダをダブルクリックする
5. [ITX Installer for USB]をダブルクリックする
6. 画面の指示に従ってインストールを行う
7. インストールが完了すると、指定したディスクの[ITX80/ITX70ユーティリティ]フォルダにらくらくウィザードとらくらくユーティリティがインストールされています。

● ご参考

手動でインストールすることもできます。「2.9.2.4 手動インストールのしかた」
( 2-40ページ)

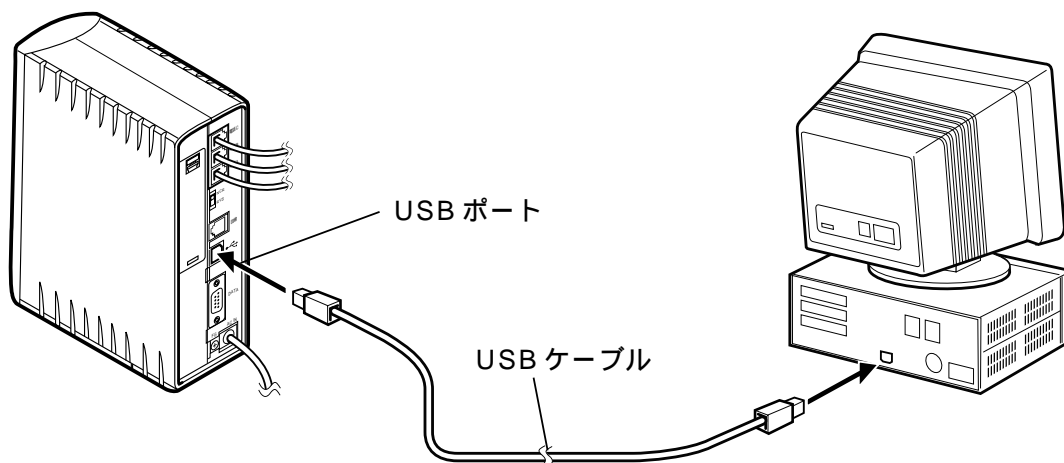
■ USBポートに接続する ■

USBポートへの接続の前に、USBドライバをインストールしてください。

1. AtermとMacintosh双方の電源が入っていることを確認する
2. USBケーブルを使って、AtermのUSBポートとMacintoshのUSBポートを接続する

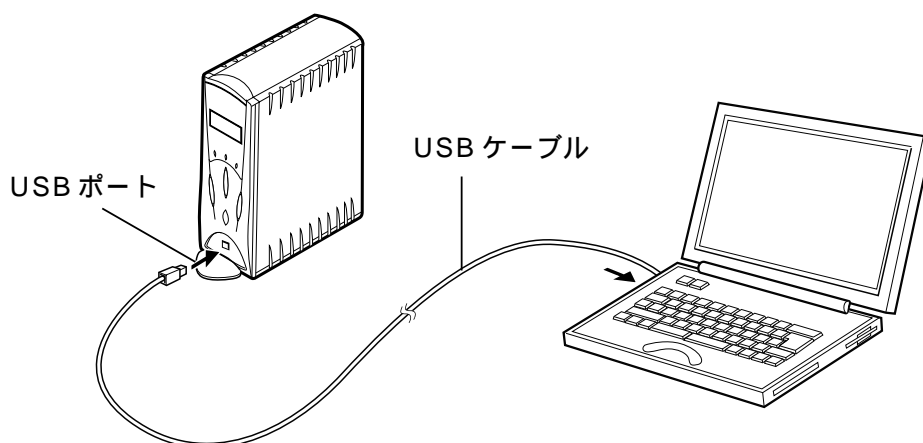
ITX80 / ITX80/Dには、前面と背面に2つのUSBポートが用意されています。前面・背面のどちらに接続してもかまいません。

背面のUSBポートに接続する場合



前面のUSBポートに接続する場合

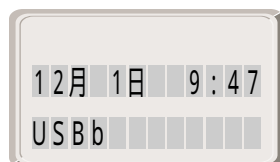
前面のUSBポートのカバーを開きます。



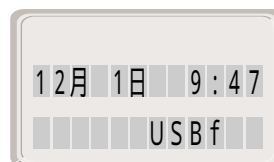
3. ディスプレイの表示を確認する

正しく接続すると、ディスプレイに次のように表示されます(日付表示は一例です)。

背面のUSBポートに接続した場合



前面のUSBポートに接続した場合



? こんなときは

- 上記のように表示されないときは、AtermとMacintoshが正しく接続されていません。USBケーブルを接続し直るか、Aterm USBドライバが機能拡張フォルダにインストールされていることを確認してください。
- 従来 of Aterm IT75/60シリーズにてUSBをご利用の場合には、従来のドライバを削除してください。IT用とITX用のUSBドライバは同一のマシンではご利用できません。



⚠️ ご注意

- Atermの動作を安定させるため、キーボードのUSBポートではなく、Macintosh本体のUSBポートに接続することをおすすめします。
- ご利用のMacintoshの環境によっては、USBケーブルを接続してもAtermが認識されないことがあります。この場合は、USBケーブルを接続し直してください。

2.9.2.3 シリアルポート(モデムポートまたはプリンタポート)へ接続する場合

■ インストーラを使って次のものをインストールします ■

- CCLファイル
- らくらくウィザード
- らくらくユーティリティ

1. Macintoshを起動する
2. 添付のCD-ROMをセットする
3. [AtermIT]アイコンをダブルクリックする
4. [ITX80/ITX70ユーティリティ]フォルダをダブルクリックする
5. [ITX Installer for Modem/Printer]をダブルクリックする
6. 画面の指示に従ってインストールを行う
7. インストールが完了すると、指定したディスクの[ITX80/ITX70ユーティリティ]フォルダにらくらくウィザードとらくらくユーティリティがインストールされています。

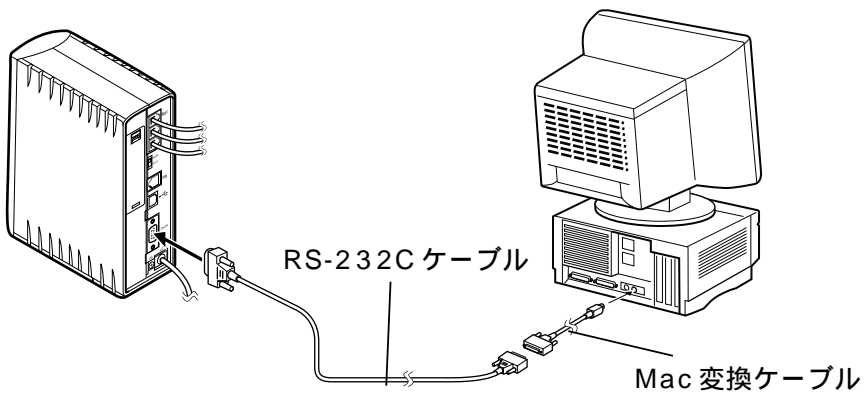
● ご参考

手動でインストールすることもできます。「2.9.2.4 手動インストールのしかた」(☞2-40ページ)

■ シリアルポート(モデムポートまたはプリンタポート)に接続する ■

AtermのデータポートとMacintoshのシリアルポート(モデムポートまたはプリンタポート)を接続します。

1. 添付のRS-232Cケーブルを使って、AtermのデータポートとMacintoshのシリアルポート(モデムポートまたはプリンタポート)を接続する
 - 1) RS-232CケーブルとMac変換ケーブルを接続する。
 - 2) Mac変換ケーブルのコネクタをMacintoshのシリアルポート(モデムポートまたはプリンタポート)に接続する。



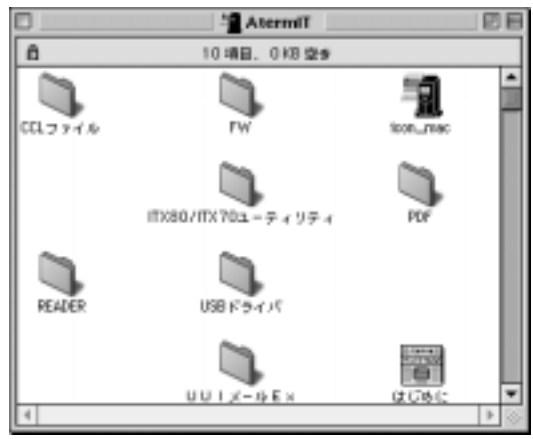
2.9.2.4 手動インストールのしかた

USBポートへ接続する場合は最初にUSBドライバをインストールします。

1. Macintoshを起動する
2. 添付のCD-ROMをセットする
3. [AtermIT]アイコンをダブルクリックする
4. [USBドライバ]フォルダをダブルクリックする



アイコンの表示色は実際とは異なることがあります。



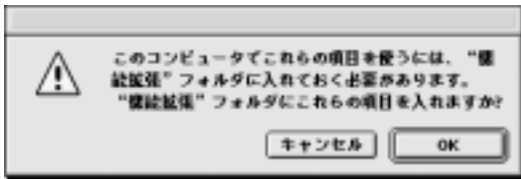
2つのファイルが表示されます。



5. 2つのファイルを、システムフォルダ内の[拡張機能]フォルダにコピーする



6. [OK] ボタンをクリックする



7. コピーが完了したら、パソコンを再起動してください。

パソコンの再起動が完了し、起動が済んだら、インストールは終了です。

注) MacOS 8.6がプレインストールされているモデルではSerialShimLibをコピーしようとする、「これは使用中です。したがって、ライブラリ“SerialShimLib”は入れかえることができません」の旨の表示が出てコピーできない場合があります。

MacOS 8.6プレインストールモデルにはこの“SerialShimLib”がすでにインストールされており、コピーを行う必要はありません。本エラーメッセージが出た場合には“SerialShimLib”のコピーは不要です。

プレインストールされている“SerialShimLib”をそのままご使用ください。

■ CCL ファイルのインストール ■

システムソフトウェアがMac OS 8以上の場合

- CD-ROMの[CCLファイル]に入っているCCLファイルを、Macintosh[システム]フォルダの中の[機能拡張]フォルダにある[Modem scripts]フォルダに入れます。

同じ名前の古いファイルがある場合は、上書きをして入れ替えます(すでにCCLファイルが入っている機種もあります)。

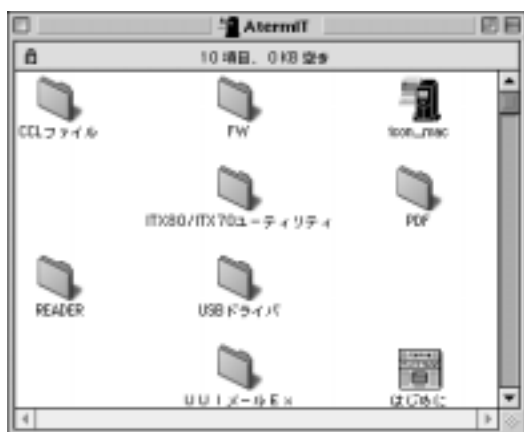
■ らくらくユーティリティとらくらくウィザードのインストール ■

らくらくユーティリティとらくらくウィザードは、Atermの設定をパソコンから行うためのソフトウェアです。最初にこれらをインストールしておきます。

1. Macintoshを起動する
2. 添付のCD-ROMをセットする
3. [AtermIT]アイコンをダブルクリックする
4. [ITX80/ITX70ユーティリティ]フォルダをハードディスクにコピーする



アイコンの表示色は実際とは異なることがあります。



2

パソコンを接続する Macintosh をお使いの方

2.10 事例を見ながら設定記入シートに書き込む

Atermに2台目の電話機やファクスなど複数のアナログ通信機器を接続したり、さまざまな機能を利用する場合は、電話番号や利用するサービスの有無などをAtermに設定する必要があります。

2.10.1 設定ツールの種類

Atermにはさまざまな機能があり、きめ細かく設定するととても便利に使うことができます。しかし、初めてターミナルアダプタを使う場合など、基本機能だけをすぐに使いたい方も多いはずです。このような要望に応じて、3種類の設定方法が用意されています。

らくらくウィザード

すぐに使いたい方向けです。電話番号などの基本の設定と一番よく使われるサービス(INSキャッチホン、INSナンバー・ディスプレイ)の設定が可能です。画面の質問に答えていくだけで設定が可能です。

Windows版とMacintosh版があります。

「2.11.1.1 らくらくウィザードでの設定 (☞2-55ページ)

「2.11.2.1 らくらくウィザードでの設定 (☞2-57ページ)

らくらくユーティリティ

Atermのすべての機能を設定できます。らくらくウィザードで設定できない内容を設定する場合にお使いください。らくらくウィザードで基本的な項目について設定したあとで、らくらくユーティリティで追加して設定することもできます。

Windows版とMacintosh版があります。

「2.11.1.2 らくらくユーティリティでの設定 (☞2-56ページ)

「2.11.2.2 らくらくユーティリティでの設定 (☞2-57ページ)

電話機

電話機のボタンを使って設定する方法です。パソコンを使わない方、パソコンをすぐにセットアップできない場合などに使用してください。

アナログ通信機器を使用するためのすべての設定を行うことができます。

「2.11.3 電話機からの設定 (☞2-59ページ)

「8. 電話機からの設定操作 (☞8-1ページ)

2.10.2 さまざまな設定事例と『らくらくユーティリティ画面兼設定記入シート』への記入

実際の設定操作に入る前に、利用するサービス・機能と設定する内容を確認するため、添付の『らくらくユーティリティ画面兼設定記入シート』に書き込んでみましょう。

ここでは、比較的多いと思われるいくつかの事例を紹介します。

事例1～事例3はらくらくウィザードで設定可能な事例です。らくらくウィザードだけで設定できる場合は、『らくらくユーティリティ画面兼設定記入シート』への記入は不要です。

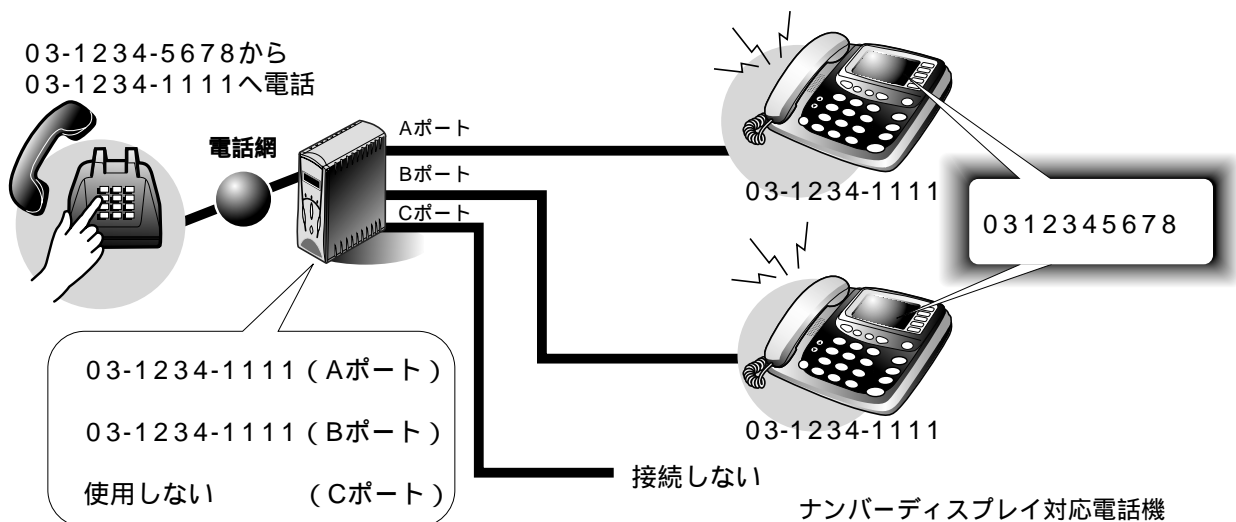
事例4～事例5はらくらくユーティリティで設定するパターンです。別紙の『らくらくユーティリティ画面兼設定記入シート』は、らくらくユーティリティの画面に対応していますので、事例を参考に記入してください。そのあとらくらくユーティリティを起動して、記入した通りに各画面で設定します。

●ご参考・・・・・・・・

「2.11.3 電話機からの設定」(☎2-59ページ)で紹介している例は、サービスを付加しない場合の事例2と同じです。

2.10.2.1 らくらくウィザードでの設定事例

事例1:電話機2台 電話番号1つ



アナログAポートとBポートに電話機を接続し、1つの電話番号を1Fと2Fで使うようなケースです。電話がかかってくると、両方の電話が鳴り、どちらでも受けることができます。

2
事例を見ながら設定記入シートに書き込む



電話がかかってきたときに相手の番号がわかるように、INSナンバー・ディスプレイの契約済みです。逆に、ナンバー・ディスプレイを利用している相手にこちらの電話番号が表示されるように、発信者番号通知を通常通知として契約しています。

接続形態

アナログAポート：電話機 例03-1234-1111
 アナログBポート：電話機 例03-1234-1111
 アナログCポート：接続しない

INSネット64の契約内容

発信者番号通知：通常通知
 INSナンバー・ディスプレイ：利用する

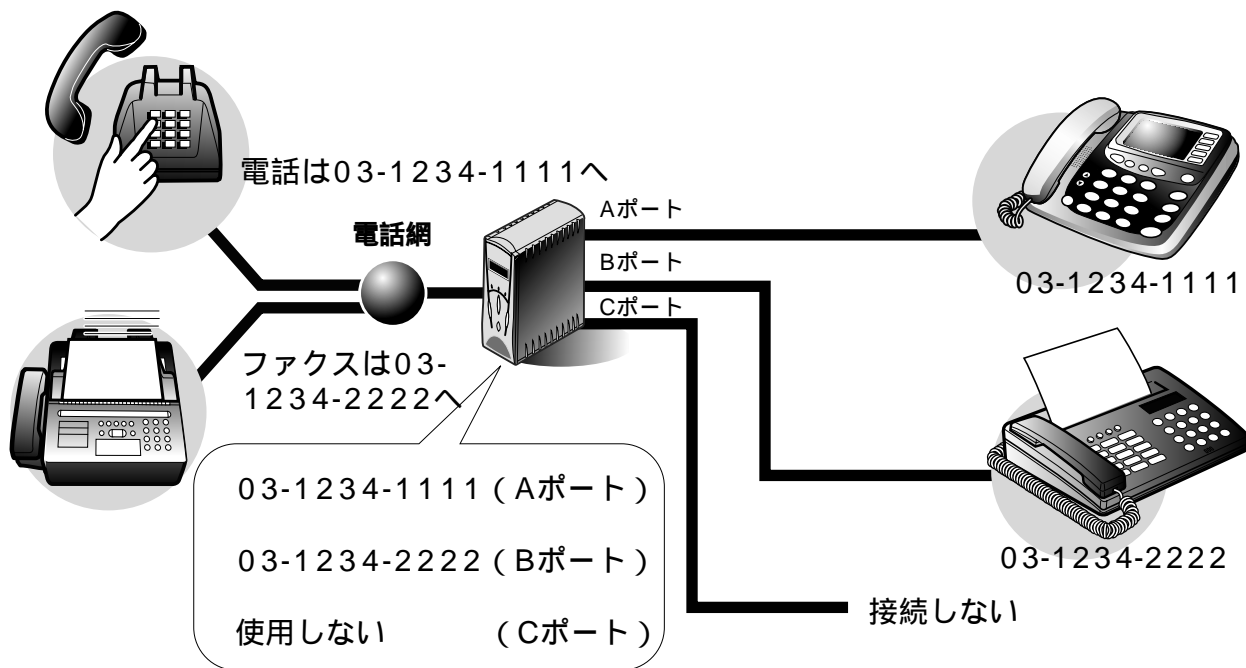
らくらくウィザードで設定する内容 - 事例1

これは、ウィザードから設定する項目を抜粋したもので、実際のウィザードの画面ではありません。

接続機器		
アナログAポート	アナログBポート	アナログCポート
電話機	電話機	接続しない
i・ナンバー	利用しない	
ダイヤルインサービス	利用しない	
電話番号		
契約者回線番号	03-1234-1111 (例)	
ポートへの着信電話番号の割り当て		
アナログAポート	アナログBポート	アナログCポート
03-1234-1111	03-1234-1111	割り当てなし
発信者番号通知		
アナログAポート	INSネット64の申込み通り 通知番号：03-1234-1111 (例)	
アナログBポート	INSネット64の申込み通り 通知番号：03-1234-1111 (例)	
アナログCポート	行わない	
キャッチホン		
アナログAポート	アナログBポート	アナログCポート
使用しない	使用しない	使用しない
ナンバー・ディスプレイ		
アナログAポート	アナログBポート	
使用する	使用する	

2
事例を見ながら設定記入シートに書き込む

事例2:電話機1台・ファクス1台・電話番号2つ



2 事例を見ながら設定記入シートに書き込む

アナログAポートに電話機を、アナログBポートにファクスを接続、それぞれに別の電話番号を割り当てるケースです。ファクスを自動受信にしておく、ファクス受信のために電話に出る必要がありません。ファクス受信件数が多い場合に適しています。電話番号を2つもらうために、i・ナンバーを契約しています。その他の付加サービスの契約は行っていません。通話中の電話を逃さないために疑似キャッチホン(Aterm機能)を利用できるように設定しましょう。

接続形態

アナログAポート：電話機 例03-1234-1111
アナログBポート：ファクス 例03-1234-2222
アナログCポート：接続しない

INSネット64の契約内容

i・ナンバー：利用する

Atermの機能

疑似キャッチホン：アナログAポートのみ



らくらくウィザードで設定する内容 - 事例2

これは、ウィザードから設定する項目を抜粋したもので、実際のウィザードの画面ではありません。

接続機器		
アナログAポート	アナログBポート	アナログCポート
電話機	FAXまたはモデム	接続しない
i・ナンバー	利用する	
電話番号		
i・ナンバー情報1	03-1234-1111 (例)	
i・ナンバー情報2	03-1234-2222 (例)	
ポートへの着信電話番号の割り当て		
アナログAポート	アナログBポート	アナログCポート
03-1234-1111	03-1234-2222	割り当てなし
発信者番号通知		
アナログAポート	行う 通知番号：03-1234-1111 (例)	
アナログBポート	行う 通知番号：03-1234-2222 (例)	
アナログCポート	行わない	
キャッチホン		
アナログAポート	アナログBポート	アナログCポート
疑似キャッチホン	使用しない	使用しない
ナンバー・ディスプレイ		
アナログAポート	アナログBポート	
使用しない	使用しない	

2

事例を見ながら設定記入シートに書き込む

⚠️ ご注意

i・ナンバーまたはダイヤルインサービスを契約せずに電話機とファクスを接続すると、電話がかかってきたとき先にファクスが応答し、電話機では電話を受けることができなくなります。また、ファクスで電話を受けても、ファクスが電話に切り替える間、相手に余計な通話料がかかるという問題点もあります。したがって電話機とファクスを接続する場合は、i・ナンバーまたはダイヤルインサービスの契約をおすすめします。

●ご参考・・・・・・・・

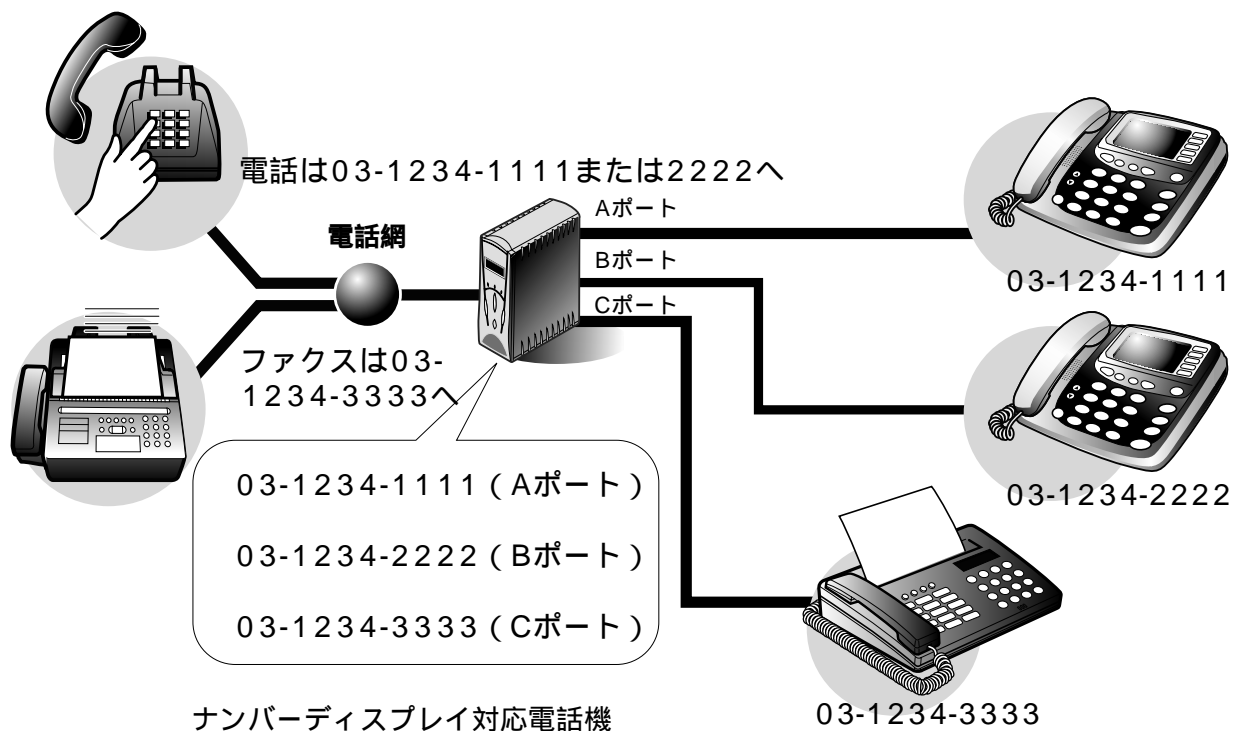
i・ナンバーについて

2つの電話番号が必要なとき、通常はi・ナンバーを契約します*1。契約者回線番号(i・ナンバー情報1)のほかに、もう1つの追加電話番号(i・ナンバー情報2)をもらうことができます。

契約者回線番号への着信があると、NTTの交換機から「i・ナンバー情報1」が通知され、追加電話番号への着信があると「i・ナンバー情報2」が通知されるので、Atermには、i・ナンバーを利用するということと、ポートごとにどちらの番号を使うかということを設定してください。

*1 ダイヤルインとグローバル着信を組み合わせても可能ですが、i・ナンバーの方が毎月の料金が安くなります。

事例3:電話機2台・ファクス1台 電話番号3つ



アナログAポートとBポートに電話機を、アナログCポートにファクスを接続し、それぞれに別の電話番号を割り当てるケースです。事例2のパターンと似ていますが、電話番号を3つ以上もらうためには、i・ナンバーではなくダイヤルインサービスとグローバル着信の契約が必要です。アナログAポートの電話機はナンバー・ディスプレイ対応なので、INSナンバー・ディスプレイの契約をしています。

接続形態

アナログAポート：電話機	例03-1234-1111
アナログBポート：電話機	例03-1234-2222
アナログCポート：FAXまたはモデム	例03-1234-3333



INSネット64の契約内容

- ダイヤルインサービス : 利用する 追加番号2つ
- グローバル着信 : 利用する
- 発信者番号通知 : 通常通知 (通話ごと非通知)
- INSナンバー・ディスプレイ : 使用する

らくらくウィザードで設定する内容 - 事例3

これは、ウィザードから設定する項目を抜粋したもので、実際のウィザードの画面ではありません。

接続機器		
アナログAポート	アナログBポート	アナログCポート
電話機	電話機	FAXまたはモデム
i・ナンバー	利用しない	
ダイヤルインサービス	利用する	
電話番号		
契約者回線番号	03-1234-1111 (例)	
	グローバル着信	グローバル着信する
ダイヤルイン番号1	03-1234-2222 (例)	
ダイヤルイン番号2	03-1234-3333 (例)	
ポートへの着信電話番号の割り当て		
アナログAポート	アナログBポート	アナログCポート
03-1234-1111 (例)	03-1234-2222 (例)	03-1234-3333 (例)
発信者番号通知		
アナログAポート	INSネット64の申込み通り 通知番号 : 03-1234-1111 (例)	
アナログBポート	INSネット64の申込み通り 通知番号 : 03-1234-2222 (例)	
アナログCポート	INSネット64の申込み通り 通知番号 : 03-1234-3333 (例)	
キャッチホン		
アナログAポート	アナログBポート	アナログCポート
使用しない	使用しない	使用しない
ナンバー・ディスプレイ		
アナログAポート	アナログBポート	
使用する	使用する	

2

事例を見ながら設定記入シートに書き込む

◆ ご注意

ダイヤルインサービスを契約せずに電話機とファクスを接続すると、電話がかかってきたとき先にファクスが応答し、電話機では電話を受けることができなくなります。また、ファクスで電話を受けても、ファクスが電話に切り替える間、相手に余計な通話料がかかるという問題点もあります。したがって電話機とファクスを接続する場合は、ダイヤルインサービスの契約をおすすめします。

● ご参考

ダイヤルインサービスとグローバル着信

3つ以上の電話番号が必要なときは、ダイヤルインサービスを契約します。基本契約でもらえる電話番号(契約者回線番号)のほかに、必要な分だけの電話番号を追加できます。

ダイヤルインサービスを利用すると、各電話番号への着信があったときに、その電話番号が交換機からAtermに通知されます。Atermは通知された電話番号を識別して、呼び出す電話機やファクスを選ぶことができます。通知される番号には、追加した番号だけではなく契約者回線番号も含まれるので、通常、ダイヤルインサービスの料金は、『(契約者回線番号 + 追加した番号の個数) × ダイヤルインサービス料金単価』となります。

ところで、INSネット64の基本サービスの中に、グローバル着信という項目があります。これを利用すると、契約者回線番号へ着信があったとき電話番号はAtermに通知されず、電話番号なしの着信となります。ダイヤルインサービスと組み合わせると、追加した番号への着信時のみ番号が通知されることになるので、ダイヤルインサービスの料金は『追加した番号の個数 × ダイヤルインサービス料金単価』と安くすみます。Atermは、「電話番号が通知されない」=「契約者回線番号への着信」と判断できますので、利用上の違いはありません。

[いろいろユーティリティ画面兼設定記入シートへの記入例 - Windowsの場合]

電話番号テーブル(画面番号3.1i)

i・ナンバー
 i・ナンバーを使用しない i・ナンバーを使用する

i・ナンバー情報	電話番号	内線指定番号	発信するポート				発信するポート						
			A	B	C	DATA	USB	A	B	C	DATA	USB	
i・ナンバー情報1 (1)	0312341111		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
i・ナンバー情報2 (2)	0312342222		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

アナログポートの設定

アナログAポート(画面番号1.1)

着信番号

発信者番号通知
 通知番号
 行わない INSネット64の申込通り
 行う

接続機器
 電話機
 FAXまたはモデム
 接続しない(使用しない)

キャッチホン
 使用しない
 INSキャッチホン
 疑似キャッチホン

受話音量
 音量・小
 音量・中
 音量・大

情報通知サービス
 使用しない
 ナンバー・ディスプレイを使用する
 モデム・ダイヤルインを使用する
 アナログ・ダイヤルインを使用する
 ナンバー・ディスプレイ + モデム・ダイヤルインを使用する
 キャッチホン・ディスプレイを使用する

停電時の動作
 停電時に着信する
 リンガ(着信音)を鳴らす
 ブザーを鳴らす

アナログポートの設定

アナログBポート(画面番号1.2)

着信番号

発信者番号通知
 通知番号
 行わない INSネット64の申込通り
 行う

接続機器
 電話機
 FAXまたはモデム
 接続しない(使用しない)

キャッチホン
 使用しない
 INSキャッチホン
 疑似キャッチホン

受話音量
 音量・小
 音量・中
 音量・大

情報通知サービス
 使用しない
 ナンバー・ディスプレイを使用する
 モデム・ダイヤルインを使用する
 アナログ・ダイヤルインを使用する
 ナンバー・ディスプレイ + モデム・ダイヤルインを使用する
 キャッチホン・ディスプレイを使用する

アナログポートの設定

アナログCポート(画面番号1.3)

着信番号

発信者番号通知
 通知番号
 行わない INSネット64の申込通り
 行う

接続機器
 電話機
 FAXまたはモデム
 接続しない(使用しない)

キャッチホン
 使用しない
 INSキャッチホン
 疑似キャッチホン

受話音量
 音量・小
 音量・中
 音量・大

共通設定(着信)(画面番号1.4)

お出かけ設定
 おやすみモード
 電話がかかってきた場合、電話機の呼び出し音を鳴らさずに着信します。
 電話着信転送モード
 電話がかかってきた場合、各種着信転送機能で他の電話に転送します。
 ボイスワープ転送モード
 電話がかかってきた場合、これをボイスワープで他の電話に転送します。
 フラッシュモード
 電話がかかってきた場合、おでかけ設定ランプが点滅します。

優先着信ポート
 指定しない Aポート Bポート Cポート

ボイスワープの設定(画面番号1.4.2)

転送開始モード
 無条件に転送
 無応答時に転送
 話中時に転送
 無応答/話中時に転送

起動電話番号

停止用電話番号

契約電話番号

2 事例を見ながら設定記入シートに書き込む



アナログAポート
高度な設定(画面番号1.1.1)

サブアドレス
サブアドレス

サブアドレスなし着信する 発・着サブアドレスを通知する
(ナンバー・ディスプレイ/モデム・ダイヤルイン利用時)

ダイヤル桁間タイム フッキング検出タイム HLC高位レイヤ整合性
 5秒 11秒 短い 長い HLCを設定しない
 9秒 13秒 普通 HLCを設定し、着信判定する
 HLCを設定するが着信判定しない

識別着信 識別リングング
 使用しない 使用しない
 INSなりわけ識別着信 INSなりわけ
 疑似識別着信 疑似なりわけ

リバースパルス
 リバースパルスを送出しない
 リバースパルスを送出する

電話帳 疑似なりわけ
(画面番号4.4)

00	日電次部	0312349999
01	日電三部	0312348888
02		
03		
04		
05		
06		
07		
08		
09		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

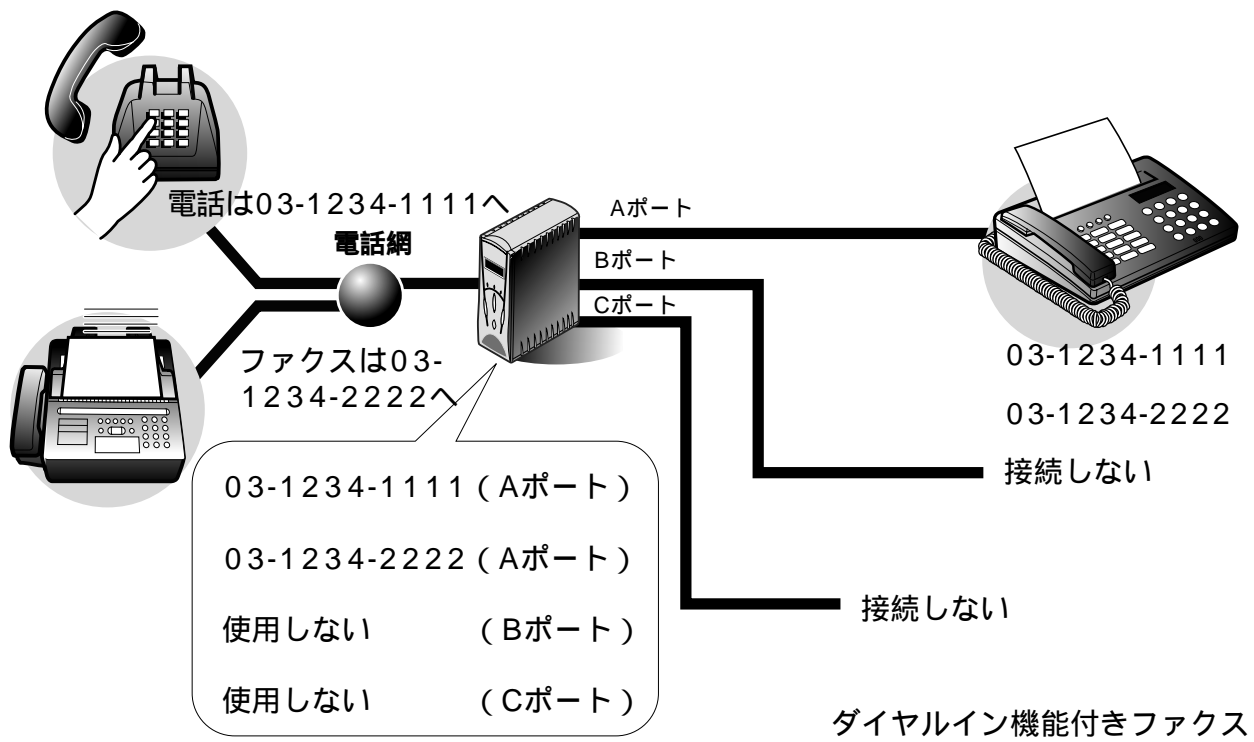
名前

電話番号 / サブアドレス /

2

事例を見ながら設定記入シートに書き込む

事例5:ファクス付き電話機 1台・電話番号 2つ



ファクス付き電話機1台をアナログAポートに接続し、電話用の電話番号とファクス用の電話番号を別にするケースです。

ダイヤルイン機能のあるファクスの場合、電話機とファクスに別々の電話番号を割り振り、電話がかかってきたときだけ着信音を鳴らし、ファクスを自動受信(無鳴動)にすることができます。

電話番号を2つ使うので、事例2と同様にi・ナンバーの契約や設定が必要です。この例では、ファクスのダイヤルイン機能を動作させるために、Atermからファクスに対し、電話機とファクスの着信を区別するための内線番号を送出してやる必要があります。この設定が、アナログ・ダイヤルインまたはモデム・ダイヤルインです。アナログ・ダイヤルインとモデム・ダイヤルインの違いは、ファクスに送出する信号の形式の違いです。お使いのファクスのダイヤルインがどちらの形式に対応

しているか取扱説明書などで調べてください。
 なお、ファクス側にもダイヤルインの内線番号の設定が必要です。

接続形態

アナログAポート：ファクス 例03-1234-1111、03-1234-2222
 アナログBポート：接続しない
 アナログCポート：接続しない

INSネット64の契約内容

i・ナンバー：利用する

Atermの機能

モデム・ダイヤルイン

[いろいろユーティリティ記入シートへの記入例 - Windowsの場合]

電話番号テーブル
 (画面番号3.1i)

i・ナンバー		<input type="radio"/> i・ナンバーを使用しない <input checked="" type="radio"/> i・ナンバーを使用する	
電話番号	内線指定番号	着信するポート	発信するポート
		A B C DATA USB	A B C DATA USB
i・ナンバー情報 (1)	0312341111	1111	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> DATA <input type="radio"/> USB
i・ナンバー情報 (2)	0312342222	2222	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> DATA <input type="radio"/> USB

アナログポートの設定
 Aポート(画面番号1.1)

着信番号	発信者番号通知
0312341111 0312342222	通知番号 0312341111
<input type="radio"/> 行わない <input checked="" type="radio"/> INSネット64の申込通り	<input type="radio"/> 行わない <input checked="" type="radio"/> INSネット64の申込通り
接続機器	キャッチホン
<input type="radio"/> 電話機 <input checked="" type="radio"/> 使用しない	<input type="radio"/> 使用しない
<input checked="" type="radio"/> FAXまたはモデム <input type="radio"/> INSキャッチホン	<input type="radio"/> INSキャッチホン
<input type="radio"/> 接続しない(使用しない) <input type="radio"/> 疑似キャッチホン	<input type="radio"/> 疑似キャッチホン
情報通知サービス	受話音量
<input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> 音量・小	<input type="radio"/> 音量・小
<input type="radio"/> ナンバー・ディスプレイを使用する <input checked="" type="radio"/> 音量・中	<input checked="" type="radio"/> 音量・中
<input checked="" type="radio"/> モデム・ダイヤルインを使用する <input type="radio"/> 音量・大	<input type="radio"/> 音量・大
<input type="radio"/> アナログ・ダイヤルインを使用する	停電時の動作
<input type="radio"/> ナンバー・ディスプレイ + モデム・ダイヤルインを使用する	<input checked="" type="radio"/> 停電時に着信する
<input type="checkbox"/> キャッチホン・ディスプレイを使用する	<input checked="" type="radio"/> リンガ(着信音)を鳴らす
	<input type="radio"/> ブザーを鳴らす

アナログポートの設定
 Bポート(画面番号1.2)

着信番号	発信者番号通知
	通知番号 0312342222
<input type="radio"/> 行わない <input checked="" type="radio"/> INSネット64の申込通り	<input type="radio"/> 行わない <input checked="" type="radio"/> INSネット64の申込通り
接続機器	キャッチホン
<input type="radio"/> 電話機 <input checked="" type="radio"/> 使用しない	<input type="radio"/> 使用しない
<input type="radio"/> FAXまたはモデム <input type="radio"/> INSキャッチホン	<input type="radio"/> INSキャッチホン
<input checked="" type="radio"/> 接続しない(使用しない) <input type="radio"/> 疑似キャッチホン	<input type="radio"/> 疑似キャッチホン
情報通知サービス	受話音量
<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 音量・小	<input type="radio"/> 音量・小
<input type="radio"/> ナンバー・ディスプレイを使用する <input checked="" type="radio"/> 音量・中	<input checked="" type="radio"/> 音量・中
<input type="radio"/> モデム・ダイヤルインを使用する <input type="radio"/> 音量・大	<input type="radio"/> 音量・大
<input type="radio"/> アナログ・ダイヤルインを使用する	
<input type="radio"/> ナンバー・ディスプレイ + モデム・ダイヤルインを使用する	
<input type="checkbox"/> キャッチホン・ディスプレイを使用する	

アナログポートの設定
 Cポート(画面番号1.3)

着信番号	発信者番号通知
	通知番号 0312342222
<input type="radio"/> 行わない <input checked="" type="radio"/> INSネット64の申込通り	<input type="radio"/> 行わない <input checked="" type="radio"/> INSネット64の申込通り
接続機器	キャッチホン
<input type="radio"/> 電話機 <input checked="" type="radio"/> 使用しない	<input type="radio"/> 使用しない
<input type="radio"/> FAXまたはモデム <input type="radio"/> INSキャッチホン	<input type="radio"/> INSキャッチホン
<input checked="" type="radio"/> 接続しない(使用しない) <input type="radio"/> 疑似キャッチホン	<input type="radio"/> 疑似キャッチホン
情報通知サービス	受話音量
<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 音量・小	<input type="radio"/> 音量・小
<input type="radio"/> ナンバー・ディスプレイを使用する <input checked="" type="radio"/> 音量・中	<input checked="" type="radio"/> 音量・中
<input type="radio"/> モデム・ダイヤルインを使用する <input type="radio"/> 音量・大	<input type="radio"/> 音量・大
<input type="radio"/> アナログ・ダイヤルインを使用する	
<input type="radio"/> ナンバー・ディスプレイ + モデム・ダイヤルインを使用する	
<input type="checkbox"/> キャッチホン・ディスプレイを使用する	

■ 事例で取り上げていないサービスについて ■

設定記入シートを見るとわかる通り、ここで取り上げていない設定項目がたくさんあります。これらの項目についての説明は、「3. 電話機能」をお読みください。Atermの持つさまざまなサービスや機能をご利用いただけます。

2 事例を見ながら設定記入シートに書き込む

2.11.1.2 らくらくユーティリティでの設定

『らくらくユーティリティ画面兼設定記入シート』の内容にもとづいた設定作業を行います。

各サービスや機能の詳細については、以下のページをお読みください。

「3. 電話機能」(☞3-1ページ)

「4.3 さまざまな通信機能」(☞4-54ページ)

画面の遷移については、『らくらくユーティリティ画面兼設定記入シート』をご覧ください。なお、AtermITX70/Dでは「USB(F)ポート」タブは表示されません。

2

アナログ通信機器用の設定をする

1. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム]-[AtermITX80/ITX70ユーティリティ]-[AtermITX80/ITX70らくらくユーティリティ]を選択する
らくらくユーティリティを起動します。らくらくユーティリティは、らくらくウィザードのメニュー画面からも起動できます。
2. らくらくユーティリティの最初の画面が表示される



- 設定する項目をクリックして選択したり、ボックスをクリックして必要な情報を入力します。
- ボタンをクリックすると、次の画面に進みます。
- その画面での選択や入力が終わったら[OK] ボタンをクリックしてください。登録が完了します。

3. 終了する

- 1) すべての設定が終わったら、らくらくユーティリティの先頭画面で「閉じる」ボタンをクリックする



- 2) 次の画面が表示されたら[OK] ボタンをクリックする



設定内容がAtermに書き込まれます。Atermに書き込んだ内容は、Atermの電源を切っても失われません。

ご注意

電話やファクスなどがアナログポートに着信中は、らくらくユーティリティの [OK] ボタンをクリックしないでください。着信音が途切れたりすることがあります。

なお、アナログポートに着信中は、設定内容を変更することはできません。

2.1 1.2 Macintosh をお使いの方

Macintoshをお使いの方の設定について説明します。

2.1 1.2.1 らくらくウィザードでの設定

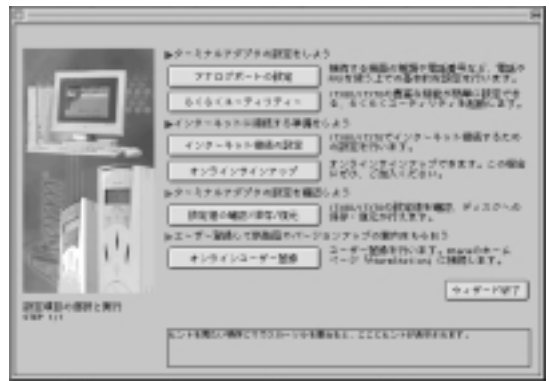
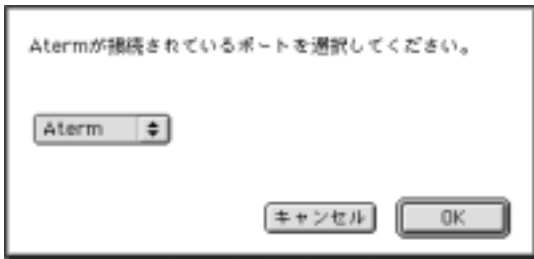
らくらくウィザードを起動し、[アナログポートの設定]で電話番号や基本的なサービスを設定します。

- [AtermITX80/ITX70らくらくウィザード]アイコンをダブルクリックする
- [アナログポートの設定]ボタンをクリックする



ITX80/ITX70らくらくウィザード

- 接続ポートを選択し、[OK] ボタンをクリックする



- アナログポートの設定用ウィザードが起動したら、画面の指示に従って設定を行う

2.1 1.2.2 らくらくユーティリティでの設定

『らくらくユーティリティ画面兼設定記入シート』の内容にもとづいた設定作業を行います。

各サービスや機能の詳細については、以下のページをお読みください。

- 「3. 電話機能」(3-1 ページ)
- 「4.3 さまざまな通信機能」(4-54 ページ)

画面の遷移については、『らくらくユーティリティ画面兼設定記入シート』をご覧ください。

1. [AtermITX80/ITX70らくらくユーティリティ]アイコンをダブルクリックする



ITX80/70らくらくユーティリティ

2. らくらくユーティリティの最初の画面が表示される



- 設定する項目をクリックして選択したり、ボックスをクリックして必要な情報を入力します。
- ボタンをクリックすると、次の画面に進みます。
- その画面での選択や入力が終わったら[OK]ボタンをクリックしてください。登録が完了します。

ご注意

電話やファクスなどがアナログポートに着信中は、らくらくユーティリティの[OK]ボタンをクリックしないでください。着信音が途切れたりすることがあります。

なお、アナログポートに着信中は、設定内容を変更することはできません。

3. 終了する

- 1) すべての設定が終わったら、らくらくユーティリティの先頭画面で[閉じる]ボタンをクリックする



- 2) メモリに書き込んだメッセージが表示されたら、[OK]ボタンをクリックする

設定内容がAtermに書き込まれます。Atermに書き込んだ内容は、Atermの電源を切っても失われません。



2.1 1.3 電話機からの設定

ここでは電話機を使って設定する方法を、下記の例に従って説明します。

接続形態

アナログAポート：電話機	例(03-1234-1111)
アナログBポート：ファクス付き電話機	例(03-1234-2222)
アナログCポート：接続しない	

INSネット64の契約内容

i・ナンバー：利用する 追加番号(03-1234-2222)

電話機からの設定について

詳しくは、「8. 電話機からの設定操作」(☞8-1ページ)を参照してください。

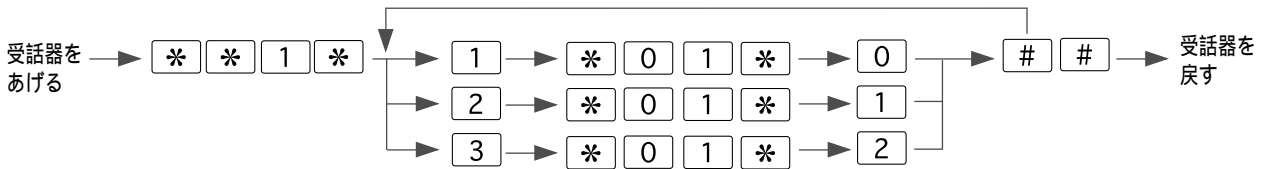
■ 設定のながれ ■

1. 接続したアナログ通信機器の種類を設定する
2. i・ナンバーの使用を設定する
3. i・ナンバー情報に電話番号を割り当てる
4. 発信時に通知する i・ナンバー情報を各ポートに割り当てる
5. 着信させるポートに i・ナンバー情報を割り当てる

2.1 1.3.1 接続したアナログ通信機器の種類を設定する

各アナログポートに接続したアナログ通信機器の種類を設定します。何も接続していないアナログポートについては、「使用しない」と設定してください。

例：Aポート = 電話機、Bポート = ファクス、Cポート = 使用しない



2
アナログ通信機器用の設定をする
電話機からの設定

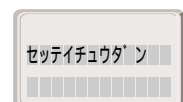
1. 電話機を受話器をあげる
2. * * 1 * を順に押す
アナログポートの設定が始まります。
3. 設定するポートの番号を押す
1 : アナログAポート
2 : アナログBポート
3 : アナログCポート

(1 を押した場合)
4. * 0 1 * を順に押す
接続機器の設定が選択されます。
5. 設定する機器の番号を押す
0 : 電話機
1 : ファクス、ファクス付き電話機、モデム
2 : 何も接続しない

(0 を押した場合)
6. # を押す
他のポートを続けて設定する場合は、手順3～6の操作を繰り返してください。
7. # を押す
設定した内容が登録されます。
8. 受話器を戻す

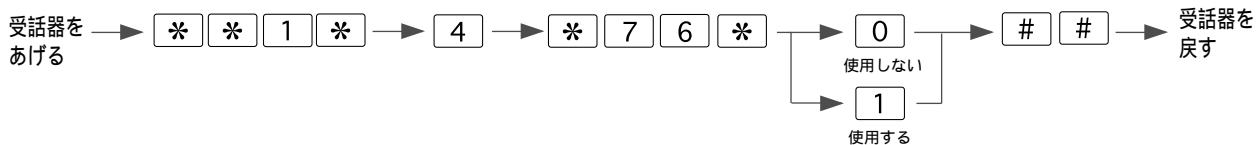
? こんなときは

- 手順2で、「ポートシヨウチュウセツテイフカ」と表示された場合、他のポートが通話や通信で使用になっています。通話や通信を終わらせてから操作しなおしてください。
- 設定を中断したいときは、受話器を戻します。「セッテイチュウダ ン」と表示され、それまでの設定内容が取り消されます。



2.11.3.2 i・ナンバーの使用を設定する

i・ナンバーを契約したときは、i・ナンバーを使用する設定をします。



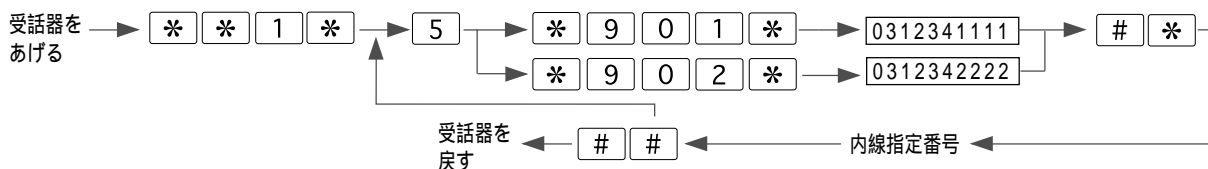
1. 電話機の受話器をあげる
2. ***** ***** **1** ***** を順に押す
アナログポートの設定が始まります。
3. **4** を押す
「アナログポート共通の設定項目-1」が選択されます。
4. ***** **7** **6** ***** **1** を順に押す
「i・ナンバーを使用する」が選択されます。
5. **#** を押す
6. **#** を押す
設定した内容が登録されます。
7. 受話器を戻す

2
アナログ通信機器用の設定をする
電話機からの設定

2.11.3.3 i・ナンバー情報に電話番号を登録する

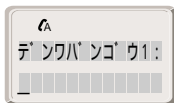
i・ナンバー情報1、i・ナンバー情報2にそれぞれ対応する電話番号を登録します。

例: i・ナンバー情報1 = 03-1234-1111
i・ナンバー情報2 = 03-1234-2222

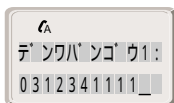


1. 電話機の受話器をあげる
2. ***** ***** **1** ***** を順に押す
アナログポートの設定が始まります。
3. **5** を押す
「アナログポート共通の設定項目-2」が選択されます。

4. を順に押す
i・ナンバー情報1の電話番号設定が選択されます。

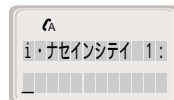


5. 登録する契約者回線番号を入力する
例:電話番号「03-1234-1111」を登録する場合

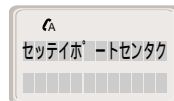


6. を押す
内線指定番号を入力できる状態になり

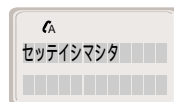
ます。この事例では内線指定番号は必要ないのでそのまま手順7に進みます。



7. を押す
手順3～6を繰り返し、i・ナンバー情報2を続けて登録します。



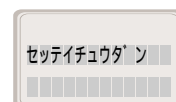
8. を押す
設定した内容が登録されます。



9. 受話器を戻す

? こんなときは・・・

- ・ 手順2で、「ポートシヨウチュウセッテイフカ」と表示された場合、他のポートが通話や通信で使用中にはなっています。通話や通信を終わらせてから操作しなおしてください。
- ・ 電話番号の入力を間違えたときは を押してください。最後尾の1ケタが削除されます。
- ・ 設定を中断したいときは、受話器を戻します。「セッテイチュウダン」と表示され、それまでの設定内容が取り消されます。



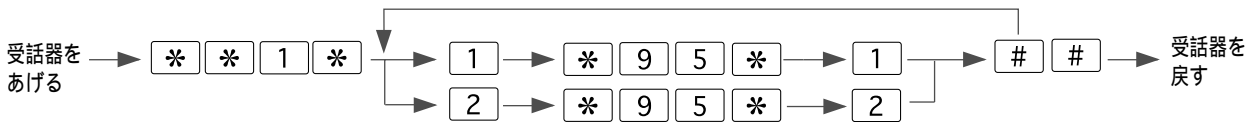
● ご参考・・・・・・・・

例えば、1台のファクス付き電話機に電話用の電話番号とファクス用の電話番号を割り当てて使うような場合は、手順6で呼び分け用の内線指定番号を登録し、さらにアナログ・ダイヤルインまたはモデム・ダイヤルインの設定を行ってください。
「3.3.9 モデム・ダイヤルイン」(☎3-41ページ)
「3.3.10 アナログ・ダイヤルイン」(☎3-44ページ)

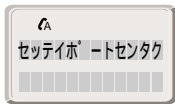
2.1 1.3.4 発信時に通知するi・ナンバー情報を各ポートに割り当てる

電話をかけたときに相手に通知するi・ナンバー情報を、アナログポートごとに設定します。i・ナンバーを契約したときは必ず設定してください。

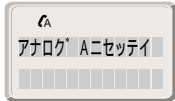
Aポートにi・ナンバー情報1を、Bポートにi・ナンバー情報2を割り当てる



1. 電話機の受話器をあげる
2. * * 1 * を順に押す
アナログポートの設定が始まります。

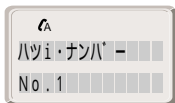


3. 設定するポートの番号を押す
 1 : アナログAポート
 2 : アナログBポート
 3 : アナログCポート

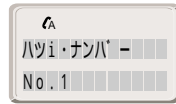


(1 を押した場合)

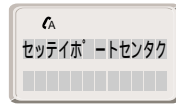
4. * 9 5 * を順に押す
発信するi・ナンバー情報の割り当てが選択されます。



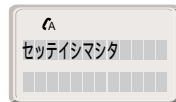
5. 選択したアナログポートに割り当てるi・ナンバー情報 1 または 2 を押す



6. # を押す
他のポートを続けて設定する場合は、手順3～6の操作を繰り返してください。



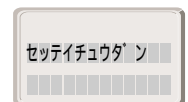
7. # を押す
設定した内容が登録されます。



8. 受話器を戻す

? こんなときは

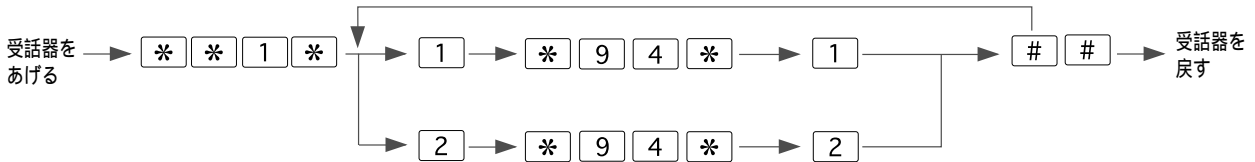
- 手順2で、「ポートシヨウチュウセツテイフカ」と表示された場合、他のポートが通話や通信で使用になっています。通話や通信を終わらせてから操作しなおしてください。
- 設定を中断したいときは、受話器を戻します。「セッテイチュウダン」と表示され、それまでの設定内容が取り消されます。



2.11.3.5 着信させるポートにi・ナンバー情報を割り当てる

i・ナンバーを契約したときは、i・ナンバー情報1とi・ナンバー情報2をそれぞれ着信させるアナログポートに割り当てる必要があります。電話がかかってくると、それぞれ割り当てられたアナログポートが呼び出されます。

例：Aポートにi・ナンバー情報1を、Bポートにi・ナンバー情報2を割り当てる



1. 電話機の受話器をあげる
2. * * 1 * を順に押す
アナログポートの設定が始まります。
3. 設定するポートの番号を押す
1 : アナログAポート
2 : アナログBポート
3 : アナログCポート

(1 を押した場合)
4. * 9 4 * を順に押す
i・ナンバー情報の割り当てが選択されます。
5. 選択したアナログポートに割り当てるi・ナンバー情報 1 または 2 を押す。
1つのアナログポートにi・ナンバー情報1と2の両方を着信させたいときは、1 2 を続けて押します。
6. # を押す
他のポートを続けて設定する場合は、手順3～5の操作を繰り返してください。
7. # を押す
設定した内容が登録されます。
8. 受話器を戻す

? こんなときは

- ・ 手順2で、「ポートシヨウチュウセッテイフカ」と表示された場合、他のポートが通話や通信で使用になっています。通話や通信を終わらせてから操作しなおしてください。
- ・ 設定を中断したいときは、受話器を戻します。「セッテイチュウダ'ン」と表示され、それまでの設定内容が取り消されます。

2.12 動作を確認する

携帯電話・PHSなどを使って、Atermに接続した電話機やファクス、パソコンなどが正しく動作することを確認します。

電話機・ファクスの操作方法については、接続した機器の取扱説明書をお読みください。

2.12.1 発信と着信を確認する

■ 接続したアナログ通信機器から電話をかける ■

- アナログポートに接続したすべての電話機から「117(時報)」や携帯電話・PHSなどに電話をかけます。発信音が鳴り、通話できることを確認してください。電話をかける方法については、「2.5.1 電話をかける」(☎ 2-14ページ)をお読みください。
- ファクスを接続した場合は、ファクスを送信できることを確認してください。
- モデムを接続した場合は、パソコン通信ができることを確認してください。

■ アナログ通信機器で電話を受ける ■

- 携帯電話やPHSから契約者回線番号に(契約した場合はi・ナンバーやダイヤルイン番号にも)電話をかけます。対応するポートに接続した電話機の着信音が鳴り、通話できることを確認してください。電話を受ける方法については、「2.5.2 電話を受ける」(☎ 2-15ページ)をお読みください。
- ファクスを接続した場合は、ファクスが受信できることを確認してください。

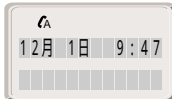
2.12.2 内線通話・内線転送する

■ 内線通話を行う ■

アナログポートに接続した電話機同士で通話できることを確認します。

1. 電話機の受話器をあげる

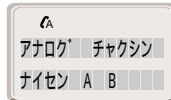
「ツー」という音が聞こえ、使用しているアナログポート名(ここではAポート)がディスプレイに表示されます。



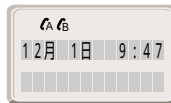
2. **#** ***** に続けて、
1 (アナログAポート)
2 (アナログBポート)
3 (アナログCポート)のいずれかをダイヤルする

ダイヤル後、約5秒(工場出荷時の値)たってから呼び出しが始まり、指定したポート(A・B・C)の電話機・ファクスの呼出音が鳴ります。

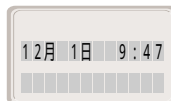
ダイヤルしたあと続けて**#**を押すと、すぐに呼び出しを行います。



3. 呼び出された電話機の受話器をあげる



4. 通話ができることを確認したら、受話器を戻す

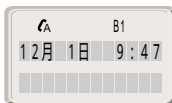


■ 内線転送を行う ■

携帯電話やPHSから契約者回線番号に(契約した場合はi・ナンバーやダイヤルイン番号にも)電話をかけて、アナログポートに接続した電話機やファクス間で転送できることを確認します。

1. 外線通話中にフッキングする

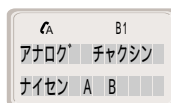
「プププ」という音が聞こえます。



2. **#** ***** に続けて、
1 (アナログAポート)
2 (アナログBポート)
3 (アナログCポート)のいずれかをダイヤルする

ダイヤル後、約5秒(工場出荷時の値)たってから呼び出しが始まり、転送先のポート(A・B・C)の電話機・ファクスの呼出音が鳴ります。

ダイヤルしたあと続けて**#**を押すと、すぐに呼び出しを行います。



3. そのまま受話器を戻すか、転送先の相手が応答したら、転送することを伝えてから受話器を戻す

外線相手と、転送先が通話できることを確認します。

